

Novell eGuide

2.1.2

管理ガイド

www.novell.com

2003年12月19日



Novell®

法令通知

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

米国輸出規制や居住国の法律など、無制限に準拠法や規制に違反して、この製品を輸出および再輸出することを禁じます。

Copyright © 2002-2003 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

特許出願中。

Novell, Inc.
1800 South Novell Place
Provo, UT 84606
U.S.A.

www.novell.com

Novell eGuide 2.1.2 管理ガイド

2003 年 12 月 19 日

オンラインドキュメント: この製品および他の Novell 製品に関するオンラインドキュメントを参照したり、更新内容を入手したりするには、www.novell.com/documentation にアクセスしてください。

Novell の商標

ConsoleOne は、Novell, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

DirXML は、Novell, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

eDirectory は、Novell, Inc. の商標です。

iChain は、Novell, Inc. の登録商標です。

NetWare は、Novell, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

Novell は、Novell, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

Novell Directory Services および NDS は、Novell, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

サードパーティの商標

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に属します。

目次

このガイドについて	9
マニュアルの更新	9
その他のマニュアル	9
マニュアルの表記規則	9
1 eGuide 製品の概要	11
製品の説明	11
主要な機能	11
バージョン 2.1.2 の新機能	12
次の手順	12
2 eGuide のインストール	13
システム要件	13
最小要件	13
インストールプログラムの実行	14
NetWare の場合	14
Windows の場合	15
UNIX の場合	15
LDAP 環境設定	15
匿名の使用	15
eGuide プロキシユーザ	16
TLS(Transport Layer Security) の使用	16
eDirectory クイックセットアップウィザードの実行	17
eGuide 2.1.2 へのアップグレード	18
eGuide のアンインストール	18
次の手順	18
3 eGuide 管理ユーティリティの使用	19
eGuide 管理ユーティリティへのアクセス	19
eGuide 管理ユーティリティの使用	19
環境設定	19
LDAP データソース	20
属性ラベル	27
表示	27
検索設定	27
レイアウトと順序	27
スキン	27
詳細	27
セキュリティ	28
管理者の役割	28
制限	29
レポート機能	30
デバッグ	30
メール設定	30

eGuide のインタフェースと使用方法	30
一般的な表示と動作	30
検索	31
[詳細] パネル	33
ラベル	34
デバッグレポート	34
属性フィルタの使用	35
4 eGuide クライアントへのアクセス	37
5 スキンやテーマの追加	39
スキンの追加	39
テーマの追加	40
6 役割ベースサービスの使用	41
A Web サーバとツール	43
B Eguide.cfg ファイル内の設定	45
C LDAP 接続用の SSL の設定と使用	47
手順 1: Sun Microsystems から JSSE パッケージをダウンロードしてセットアップする	47
手順 2: セキュリティオブジェクトでプロバイダを設定する	48
手順 3: SSL をサポートするように LDAP サーバを設定する	48
手順 4: LDAP グループオブジェクトを設定する	48
手順 5: ルート認証局証明書をエクスポートする	48
手順 6: ルート認証局証明書をインポートする	49
手順 7: Tomcat 環境設定ファイルを編集する	49
手順 8: eMFrame.cfg ファイルを変更する	50
手順 9(オプション): SSL を使用するように eGuide を設定する	50
D UI ハンドラ	51
属性名に関連付けられる UI ハンドラ	51
LDAP ディレクトリ構文に関連付けられる UI ハンドラ	52
UI ハンドラの使用	54
既存 UI ハンドラの詳細プロパティの変更	54
新しい UI ハンドラの作成	54
手順 1: UI ハンドラの情報を登録する	54
手順 2: UI ハンドラの動作を定義する	55
E eGuide アクションコマンド	57
アクションコマンドの表示	57
コマンドのパラメータと例	57
アクションなし	57
AuthForm	57
AuthHeader	58
AuthBody	58
Detail.get.	59
DetailEdit.	59
DetailModify	59
DetailUpdate	59
eGuideForm	60
eGuideHeader	61
eGuide.verifyCredentials.	61
eGuide.verifyNewPassword	62
eGuide.selectContext	62
List.get	63
List.get (キャッシュされたリスト)	64
6 Novell eGuide 2.1.2 管理ガイド	

List.get(詳細)	64
Login	65
OrgChart	65
OrgChartUpdate	66
PasswordModify	67
PasswordUpdate	68
PhotoModify	68

このガイドについて

このガイドでは、Novell® eGuide 2.1.2 を作成および使用方法について説明します。対象はネットワーク管理者で、次のセクションから構成されています。

- ◆ 1章 11 ページの、「eGuide 製品の概要」
- ◆ 2章 13 ページの、「eGuide のインストール」
- ◆ 3章 19 ページの、「eGuide 管理ユーティリティの使用」
- ◆ 4章 37 ページの、「eGuide クライアントへのアクセス」
- ◆ 5章 39 ページの、「スキンやテーマの追加」
- ◆ 6章 41 ページの、「役割ベースサービスの使用」

特定の設定状況について説明した付録も含まれています。

- ◆ 43 ページの付録 A、「Web サーバとツール」
- ◆ 45 ページの付録 B、「Eguide.cfg ファイル内の設定」
- ◆ 57 ページの付録 E、「eGuide アクションコマンド」
- ◆ 51 ページの付録 D、「UI ハンドラ」

マニュアルの更新

Novell eGuide の最新バージョンのマニュアルについては、[Novell documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/japanese/eguide211\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/eguide211) を参照してください。

その他のマニュアル

eGuide は、Novell eDirectory™ や Novell iManager など、多くの Novell 製品とともに動作します。

Novell eDirectory および iManager のインストールと実行に関するマニュアルについては、[Novell Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

マニュアルの表記規則

このマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (® や ™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (¥) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。UNIX* などのようにスラッシュを使用するプラットフォームのユーザは、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

1

eGuide 製品の概要

このセクションでは、次のような Novell® eGuide 2.1.2 ソフトウェアの概要について説明します。

- ◆ 11 ページの「製品の説明」
- ◆ 11 ページの「主要な機能」
- ◆ 12 ページの「バージョン 2.1.2 の新機能」

製品の説明

eGuide は、重要な人物、場所、物事などに関するすべての情報を従業員が必要に応じて検索できるようにする Web アプリケーションです。このシンプルなブラウザベースのソリューションにより、従業員は LDAP データソースの場所に関係なく必要情報を検索できるようになります。

eGuide はアドレス帳に似ていますが、通常のアドレス帳とは異なり、プラットフォームや特定のアプリケーションに依存しません。Web サーバに対する権利を持っているユーザであれば、標準的な Web ブラウザから eGuide にアクセスできます。

eGuide を使用すると、Novell eDirectory™ だけでなく、複数の LDAP データソースを同時に検索できます。たとえば、ある会社が別の会社を吸収した場合、2 つのディレクトリを同時に参照できる eGuide を使用すれば、両方の会社の個人別電話帳を組み合わせたものを簡単に作成できます。

eGuide は広く一般に普及しているプラットフォーム上で動作し、Microsoft* NetMeeting* や AOL* Instant Messenger* などのリアルタイムコラボレーションツール、電子メール、インスタントメッセージングに対応しています。検索対象の人物を見つけると、電子メール、インスタントメッセージング、ビデオ会議など、そのときの状況に応じたタイプの通信を開始できます。

主要な機能

- ◆ 表示と管理は HTML、XML、XSL などの規格に基づいて行われるので、設定および使用が容易で、高度なカスタマイズが可能です。
- ◆ 高度な検索機能が用意されているので、あらゆる属性について検索できます。
- ◆ データハンドラコントロールにより、任意の方法で情報を表示できます。
- ◆ eDirectory の属性に基づいて組織チャートが自動的に生成されます。
- ◆ コンテキストレスログイン、cookie、eDirectory のパスワード制限などを含む、匿名認証モードとユーザ認証モードがサポートされています。
- ◆ 認証検索では、eDirectory のアクセス制御リストが使用され、家庭の電話番号など特定の属性情報にユーザがアクセスできるかどうかが決まります。

- ◆ eGuide は、Novell iChain[®] および Novell Portal Services とシームレスに動作します。また、DirXML[®] 同期プロジェクトに対する優れたアドオンとしても機能します。
- ◆ eGuide は、eDirectory などの LDAP 対応ディレクトリサービスと互換性があります。

バージョン 2.1.2 の新機能

- ◆ iManager 2.0 で使用されている役割ベースサービス (RBS) のサポート
- ◆ iManager 1.5.x との下位互換性
- ◆ すべての認証フォームのサポートなど、iChain のサポートの拡張
- ◆ 新しい検索属性フィルタ機能
- ◆ SSL (Secure Socket Layer) の自動設定
- ◆ クイックセットアップウィザードの改善
- ◆ カウンタの改良

次の手順

- ◆ eGuide のインストール方法については、[2 章 13 ページの、「eGuide のインストール」](#)を参照してください。
- ◆ eGuide の設定と管理については、[3 章 19 ページの、「eGuide 管理ユーティリティの使用」](#)を参照してください。
- ◆ eGuide クライアントの使用方法については、[4 章 37 ページの、「eGuide クライアントへのアクセス」](#)を参照してください。

2

eGuide のインストール

Novell® eGuide 2.1.2 をインストールするには、次の手順に従います。

1. ネットワークが必要条件を満たしているか確認します。詳細については、[13 ページの「システム要件」](#)を参照してください。
2. ソフトウェアをインストールします。詳細については、[14 ページの「インストールプログラムの実行」](#)を参照してください。
3. 使用している LDAP 環境について把握します。詳細については、[15 ページの「LDAP 環境設定」](#)を参照してください。
4. eGuide クイックセットアップウィザードを使用して、eGuide ソフトウェアを設定します（初めはセットアップのみ行います）。詳細については、[17 ページの「eDirectory クイックセットアップウィザードの実行」](#)を参照してください。

eGuide をバージョン 2.1 にアップグレードする場合は、[18 ページの「eGuide 2.1.2 へのアップグレード」](#)を参照してください。

システム要件

最小要件

eGuide 2.1.2 ソフトウェアを実行するための最小システム要件は、次のとおりです。

システムコンポーネント	最小要件
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">◆ NetWare 6 with Support Pack 3 以降◆ Red Hat* Linux* 7.3◆ Solaris* 8◆ Windows* 2000/XP (推奨) または Windows NT*◆ AIX 5L
Web サーバ	<ul style="list-style-type: none">◆ Windowsプラットフォームで動作するInternet Information Server (IIS) 4.0 以降◆ Apache HTTP サーバ 1.3.26 以降 <p>Apache のインストール方法については、Apache のマニュアル Web サイト (http://httpd.apache.org/docs-2.0/) を参照してください。</p>

システムコンポーネント	最小要件
Webアプリケーションサーバ	<ul style="list-style-type: none"> Tomcat サブレットコンテナバージョン 3.3a、3.3.1、または 3.3.1a <p>メモ：Tomcat は、Windows NT では最適なパフォーマンスを得られません。</p> <p>Tomcat のインストール方法については、Apache Jakarta の Web サイト (http://jakarta.apache.org/tomcat/tomcat-4.1-doc/index.html) を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> Sun* Java* 2 Standard Edition (J2SE) 1.3.1 以降 IBM* Java 1.3.1 for AIX
Java 仮想マシン (JVM*)	バージョン 1.3.1 以降
LDAP ディレクトリ	<ul style="list-style-type: none"> LDAP v3 のサポート eGuideとともに、LDAPディレクトリとしてNovell eDirectory™ (以前の NDS®) を使用する場合は、バージョン 8 以降が最小要件です。パスワードセキュリティをサポートするには、バージョン 8.5 以降が必要です。役割ベースサービスをサポートするには、バージョン 8.6.2 以降が必要です (バージョン 8.7.1 を推奨します)。 クリアテキスト接続の場合は、クリアテキストパスワードを使用します。eDirectory 8.7.1 では、デフォルトでクリアテキストパスワードが無効になっています。
eGuide 管理ユーティリティのブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> Netscape* 7 以降 Internet Explorer 5.5 SP2 以降
eGuide クライアントのブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> Netscape 4.78 以降 (バージョン 7 を推奨) Internet Explorer 5.0 以降 (バージョン 6 を推奨)

インストールプログラムの実行

インストールプログラムの実行方法は、eGuide のインストール先サーバのプラットフォームによって異なります。eGuide は、NetWare® 6.5 などの大きなパッケージの一部としてもインストールできます。

重要： eGuide をバージョン 2.1 にアップグレードする場合は、[18 ページの「eGuide 2.1.2 へのアップグレード」](#) を参照してください。

NetWare の場合

- 次のファイルを NetWare サーバの sys: ボリュームにコピーします。

```
/install/netware/eguideinstall.jar
```

このパスは、eGuide のファイルの展開先ディレクトリを示しています。

- NetWare サーバコンソールで、次のコマンドを入力します。

```
java -cp full_path/eGuideInstall.jar install
```

full_path の部分は、eguideinstall.jar ファイルのダウンロード先ディレクトリのパスに置き換えてください。

- 表示される指示に従います。

Windows の場合

- 1 Windows のエクスプローラまたは [ファイル名を指定して実行] を使用して、次のファイルを実行します。

```
\install\win\eguideinstall.exe
```

このパスは、eGuide のファイルの展開先ディレクトリを示しています。

- 2 表示される指示に従います。

UNIX の場合

- 1 シェルを開いて、/install/unix ディレクトリに移動します。

このパスは、eGuide のファイルの展開先ディレクトリを示しています。

重要: インストールプログラムを実行するには、PATH 環境変数が Java 仮想マシンの場所 (/usr/java/bin など) を参照している必要があります。

- 2 次のコマンドを入力します。

```
sh ./eguideinstall.bin
```

- 3 表示される指示に従います。

LDAP 環境設定

eGuide は、LDAP クライアントアプリケーションです。eDirectory などの LDAP 準拠データソースにあるデータを扱うことができます。eGuide の設定プロセスには、LDAP データソースを識別する方法とそのデータソースに eGuide でアクセスする方法が含まれます。eGuide を設定する前に、LDAP サーバについて知っておくべきことがいくつかあります。

- ◆ [15 ページの「匿名の使用」](#)
- ◆ [16 ページの「eGuide プロキシユーザ」](#)
- ◆ [16 ページの「TLS\(Transport Layer Security\) の使用」](#)

匿名の使用

LDAP サーバの特徴は、匿名バインドを使用してデータにアクセスできることです。匿名はゲストアカウントと考えることができます。匿名バインドを使用すると、ユーザは自分自身を識別させずに LDAP データにアクセスできます。匿名を使用する場合は通常、LDAP サーバ上のデータへのアクセスには制限が加えられます。そのため、アクセスできないオブジェクトがあったり、オブジェクトの一部の属性にしかアクセスできなかったりする場合があります。

eDirectory では、匿名ユーザは、[Public] という名前の疑似オブジェクトに割り当てられた権利か、LDAP プロキシユーザオブジェクトに割り当てられた権利を持ちます。

デフォルトでは、匿名ユーザはディレクトリ内のオブジェクトに対して [Public] と同じ権利を与えられます。ツリーを作成すると、[Public] にはツリーのルートに対するブラウザ権が与えられます。そのため、デフォルトで同様の権利が与えられている匿名 LDAP 接続のユーザも、ツリー内のオブジェクトと名前を表示できます。ただし、匿名 LDAP 接続ではオブジェクトの属性を表示することはできません。

eGuide では、検索操作に主として LDAP を使用します。検索操作を行うには、検索対象の属性に対する読み込み権が必要です。たとえば、Jones という姓のユーザをすべて検索するには、姓の属性に対する読み込み権が LDAP 接続に必要です。デフォルトの [Public] オブジェクトによって与えられるブラウザ権は、LDAP 検索操作には不十分です。

iManager では、ツリーの一部にトラスティとして [Public] を指定することで、オブジェクトとその属性に対する特定の権利を与えることができます。

LDAP プロキシユーザを指定することもできます。LDAP プロキシユーザを指定した場合、匿名アカウントは、[Public] に与えられた権利ではなく Proxy オブジェクトの権利を使用します。iManager では、LDAP プロキシユーザを作成し、それをツリーの一部に対するトラスティとして指定することで、オブジェクトとその属性に対する特定の権利を与えることができます。LDAP プロキシオブジェクトの DN を指定するには、LDAP Group オブジェクトを編集します。LDAP Proxy オブジェクトには、NULL パスワードを設定しないでください。

つまり、LDAP データソースとして eDirectory を使用する場合、eGuide の設定時に [匿名を使用] を選択すれば、[Public] または LDAP プロキシユーザに割り当てられた権利を使用して eGuide で検索を行えるようになります。

eGuide プロキシユーザ

もう 1 つのオプションとして、eGuide プロキシユーザを作成してそれをツリーの一部のトラスティとして指定し、オブジェクトとその属性に対する特定の権利を与える方法もあります。eGuide プロキシユーザは LDAP プロキシユーザと同じように機能しますが、LDAP プロキシがすべての LDAP 匿名バインドに適用されるのに対して、eGuide プロキシユーザは eGuide アプリケーションについてのみ有効です。

LDAP ディレクトリへのバインドに匿名を使用するか eGuide プロキシユーザを使用するかは、eGuide の設定時に指定します。

どちらを指定した場合でも、eGuide を使用して検索できないときは、eGuide への権利付与に使用したアカウントの権利が不十分だったことが原因と考えられます。

TLS(Transport Layer Security) の使用

対象となる LDAP システムにおいてセキュア接続がどのように処理されるかについても、知っておく必要があります。問題となるのは、eGuide アプリケーションと LDAP サービスの間の接続です。LDAP サービスがセキュア接続を使用するように設定されている場合は、eGuide でもセキュア接続を使用するように設定する必要があります。この設定を行うには、eGuide クイックセットアップウィザードで [SSL を有効にする] オプションを選択します。

eDirectory 8.7 では、セキュア LDAP 接続に TLS(Transport Layer Security) を使用します。TLS は、SSL(Secure Socket Layer) のオープンソースインプリメンテーションです。eDirectory の LDAP サービスには、TLS に関して 2 つのオプションがあります。

オプション 1: パスワードとの単純バインドに TLS を必要とする

eDirectory 8.7 のデフォルトでは、パスワードを使った単純なバインドに TLS が必要です。この設定を変更するには、LDAP サービスの LDAP グループオブジェクトを編集します。ただし Novell では、この設定をオンにして、LDAP サービスへのバインドに使用するパスワードを暗号化することをお勧めします。

オプション 2: すべての操作に TLS を必要とする

このオプションを表示または変更するには、iManager を使用して LDAP サービスの LDAP Server オブジェクトを編集します。このオプションをオンにすると、LDAP のすべての要求操作と返信操作が暗号化されます。デフォルトでは、このオプションはオフになっています。

TLS オプション 1 とオプション 2 のいずれかをオンにした場合、クライアントアプリケーション (この場合は eGuide) は、LDAP サービスへのバインドに TLS を使用します。クライアントアプリケーションが TLS を使用せずにバインドしようとすると、「無効な認証プロキシアクセス情報です。サーバへの認証が行えませんでした。」というエラーメッセージが表示されます。

クイックセットアップウィザードを使用して eGuide を設定するときは、[SSL を有効にする] チェックボックスが表示されます。LDAP サービスでいずれかの TLS オプションを設定した場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。

匿名を使用する場合、単純な LDAP バインドにはパスワードが使用されないため、クイックセットアップウィザードで [SSL を有効にする] チェックボックスをオンにする必要はありません。

TLS はパフォーマンスを大きく低下させます。同じセキュアドメイン内にあるサーバ上で eGuide と eDirectory の両方を実行している場合は、TLS を無効にした方がパフォーマンスが向上します。

eDirectory クイックセットアップウィザードの実行

eGuide を使用するには、あらかじめクイックセットアップウィザードを実行しておく必要があります。eGuide をインストールした後、次の作業を行ってください。

- 1 ブラウザで次の URL にアクセスします。

`http://web_server:port_number/eGuide/admin/index.html` (大文字と小文字を正しく入力してください)

`web_server` の部分は、eGuide をインストールした Web サーバのホスト名または IP アドレスに置き換えてください。

注: ポート番号は、Web サーバの設定によって異なります。

クイックセットアップウィザードを起動できない場合は、Web サーバまたはサブレットエンジンの設定を変更して、eGuide アプリケーションにアクセスできるようにする必要があります。設定の要件は、Web サーバによって異なります。詳細については、Web サーバのマニュアルを参照してください。設定を変更した後は、Web サーバとサブレットエンジンを再起動する必要があります。

- 2 画面の指示に従って、eGuide で検索する最初の LDAP データソースを設定します。

クイックセットアップウィザードが終了すると、eGuide 管理ユーティリティが自動的に起動します。管理ユーティリティを使用すると、eGuide の設定とカスタマイズをさらに詳しく行えます。詳細については、[3 章 19 ページの「eGuide 管理ユーティリティの使用」](#)を参照してください。

通常は詳しく設定しなくても eGuide の使用を開始できますが、次のような場合は詳しい設定が必要です。

- ◆ ウィザードで設定した LDAP データソースに、eGuide がデフォルトで使用するスキーマクラスが含まれていない場合。

デフォルトでは、eGuide は User という検索カテゴリを作成し、このカテゴリに InetOrgPerson、OrganizationalPerson、Person というスキーマクラスを追加しようとします。クイックセットアップウィザードで設定した LDAP データソースにこれらのクラスのいずれかが存在しない場合は、User 検索カテゴリに 1 つ以上のスキーマクラスを追加して、LDAP データソース内のすべての必要情報に eGuide がアクセスできるようにします。検索カテゴリにスキーマクラスを追加する方法については、[26 ページの「検索カテゴリに対するスキーマクラスの追加と削除」](#)を参照してください。

- ◆ ウィザードで入力した認証アカウント情報が eGuide のデフォルトのプロキシアカウント情報として使用されるのを許可しない場合。eGuide で追加のプロキシアカウント情報を設定する方法については、[22 ページの「LDAP 設定の編集」](#)を参照してください。

eGuide 2.1.2 へのアップグレード

eGuide 2.1.2 にアップグレードする場合、既存の eGuide ディレクトリ構造を保持するか上書きするかを選択できます。

重要: eGuide 2.1.2 にアップグレードした後、eGuide 管理コンソールを使用して役割ベースサービスにアクセスすると、サーバはサブレット 500 エラーを戻します。このエラーを解決するには、クリーンインストールした eGuide 2.1.2 の \lib ディレクトリをエラーが発生した eGuide 2.1.2 サーバにコピーして、Tomcat を再起動します。この問題の詳細については、[TID 10087097 \(http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10087097.htm\)](http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10087097.htm) を参照してください。

eGuide 2.1.2 インストールプログラムの実行中は、[Backup Existing Settings (Recommended) (既存の設定のバックアップ (推奨))] チェックボックスが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、次の処理が行われます。

- ◆ config、plugins、templates ディレクトリの名前がそれぞれ config_old、plugins_old、templates_old に変更されます。新しいバージョンの config、plugins、templates ディレクトリが作成されます。

config_old、plugins_old、templates_old ディレクトリがすでに存在している場合は、現バージョンの config、plugins、templates ディレクトリの名前が config_old2、plugins_old2、templates_old2 に変更されます。directoryname_old2 がすでに存在している場合は、最高 99 までの数字を順に使用して名前が変更されます。どれが最新のインストールバックアップディレクトリであるか不明な場合は、ディレクトリのタイムスタンプを調べてください。

- ◆ プロパティディレクトリ内のシリアルファイル (*.ser) がすべて削除されます。

注: eGuide 2.1.x では、ser ファイルの代わりに XML ファイルが使用されます。

- ◆ キーと値の新しいペアはすべて、\WEB-INF\classes\com\novell\eguide\language ディレクトリに保存されている既存のリソースバンドルに追加されます。

[Backup Existing Settings (Recommended)(既存の設定のバックアップ (推奨))] ボックスをオフにすると、既存のプロパティディレクトリが削除されてインストールが続行します。

eGuide のアンインストール

eGuide をアンインストールするには、インストール時に作成された eguide ディレクトリを削除します。デフォルトでは、このディレクトリのインストール場所への相対パスは ...\\webapps\eguide です。

NetWare サーバから eGuide をアンインストールするときは、nwconfig ユーティリティの「アプリケーションの追加と削除」機能を使用できます。

次の手順

- ◆ eGuide クライアントの設定と管理については、[3 章 19 ページの、「eGuide 管理ユーティリティの使用」](#)を参照してください。
- ◆ eGuide クライアントの使用方法については、[4 章 37 ページの、「eGuide クライアントへのアクセス」](#)を参照してください。

3

eGuide 管理ユーティリティの使用

Novell® eGuide 2.1.2 の管理と設定を行うには、eGuide 管理ユーティリティを使用します。このセクションでは、管理ユーティリティで使用できる機能の概要について説明します。

役割ベースサービス (RBS) を管理するには、Novell iManager を使用します。詳細については、iManager のマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/japanese/imanager20>) を参照してください。

eGuide 管理ユーティリティへのアクセス

管理ユーティリティにアクセスするには、互換性があるブラウザ (Internet Explorer 5.5 以降または Netscape 6.2 以降を推奨) を使用して、次のいずれかの操作を行います。

- ◆ 次の URL にアクセスします。大文字と小文字を正しく入力してください。

`http://web_server/eGuide/admin/index.html`

`web_server` の部分は、eGuide のインストール先 Web サーバのホスト名または IP アドレスに置き換えてください。ポート番号が必要な場合もあります。

- ◆ クイックセットアップウィザードで指定した管理ユーザとして eGuide クライアントにログインし、[管理ユーティリティ] アイコンをクリックします。

重要: [管理ユーティリティ] アイコンを使用できるのは、eGuide 管理者として指定された認証ユーザだけです。詳細については、28 ページの「管理者の役割」を参照してください。

eGuide 管理ユーティリティの使用

次の設定オプションを切り替えるには、管理ユーティリティの左パネルを使用します。

- ◆ 19 ページの「環境設定」
- ◆ 27 ページの「表示」
- ◆ 28 ページの「セキュリティ」
- ◆ 30 ページの「レポート機能」

環境設定

この画面には、次の設定オプションが含まれています。

- ◆ 20 ページの「LDAP データソース」
- ◆ 27 ページの「属性ラベル」

LDAP データソース

このセクションでは、次の LDAP データソース設定作業について説明します。

- ◆ 20 ページの「LDAP データソースの追加」
- ◆ 21 ページの「LDAP データソースの有効 / 無効」
- ◆ 21 ページの「LDAP データソースの削除」
- ◆ 21 ページの「ディレクトリの認証設定の変更」
- ◆ 22 ページの「LDAP データソースの設定と属性の編集」
- ◆ 25 ページの「LDAP スキーマの更新」
- ◆ 25 ページの「検索カテゴリの変更」

LDAP データソースの追加

LDAP データソースを追加すると、eGuide セットアップウィザードの実行時に追加した最初のディレクトリにおける User 属性の設定とマッピングが eGuide によって使用され、新しいディレクトリの User カテゴリが作成されます。したがって、変更が必要な場合は、新しいディレクトリを追加する前に最初のディレクトリにおける User 属性の設定とマッピングを変更することをお勧めします。詳細については、24 ページの「LDAP 属性の編集」を参照してください。

eGuide のマルチスレッド検索機能を利用すると、検索のパフォーマンスを向上させることができます。たとえば、1 つの大きなディレクトリを eGuide 内で複数のディレクトリに分割し、それぞれが異なる検索ルートを参照するように設定できます。この方法で分割するディレクトリにユーザの認証が必要な場合は、各ディレクトリを設定を認証グループの一部として指定してください。認証グループ機能の詳細については、21 ページの「ディレクトリの認証設定の変更」を参照してください。

eGuide で検索するディレクトリのリストに LDAP データソースを追加するには、次の手順に従います。

- 1 管理ユーティリティで、[LDAP データソース] > [新規] の順にクリックします。
- 2 [LDAP 設定] ページで、ディレクトリ名、ホスト名 (DNS 名または IP アドレス)、ポート番号を指定します。この 3 つは必ず指定してください。

他の設定はすべてオプションです。詳細については、22 ページの「LDAP 設定の編集」を参照してください。

重要：ディレクトリ名に使用できるのは、英数字とアンダースコア (_) だけです。この名前は管理ユーティリティ内の識別名としてのみ使用され、ディレクトリを追加した後では変更できません。

- 3 [保存] をクリックします。
[属性] ページまたは [詳細] ページにアクセスするには、必須情報を入力して [保存] をクリックする必要があります。

- 4 [属性] をクリックし、eGuide ユーザに表示と検索を許可できるように LDAP 属性を設定します。

詳細については、24 ページの「LDAP 属性の編集」を参照してください。

- 5 [保存] をクリックします。
- 6 [LDAP データソース] をクリックし、追加したディレクトリについて [ログインサーバ]、[認証グループ]、[有効] を変更します。

これらの設定の詳細については、21 ページの「ディレクトリの認証設定の変更」と 21 ページの「LDAP データソースの有効 / 無効」を参照してください。

- 7 [保存] をクリックします。

LDAP データソースの有効 / 無効

ディレクトリを使った検索をユーザに許可するかどうかは、[有効] 設定によって指定します。

- 1 管理ユーティリティで、[LDAP データソース] をクリックします。
- 2 目的のディレクトリについて [有効] を選択するか、選択解除します。

LDAP データソースの削除

- 1 管理ユーティリティで、[LDAP データソース] をクリックします。
- 2 目的のディレクトリについて [削除] をクリックします。

ログインサーバとして指定したディレクトリは削除できません。

ディレクトリの認証設定の変更

- 1 管理ユーティリティで、[LDAP データソース] をクリックします。
- 2 ログイン (認証) サーバとして指定するディレクトリについて「ログインサーバ」をクリックします。

eGuide に対する認証が必要なすべてのユーザと管理者について、識別名とパスワードがログインサーバディレクトリ内に存在する必要があります。たとえば、編集可能属性をユーザまたはユーザ管理者が変更する場合には、認証が必要です。また、認証されたユーザでなければ eGuide にアクセスできないように設定することもできます。詳細については、[29 ページの「制限」](#)を参照してください。

警告: ログインサーバの指定を別のディレクトリに変更した場合は、新しく指定したディレクトリ内にすべてのユーザ管理者および eGuide 管理者の識別名がない限り、[管理者の役割] 設定は無効になります。

- 3 (状況によって実行) [ログインサーバ] の指定を変更した場合は、次の手順に従います。
 - 3a [LDAP データソース] > [編集] (新たにログインサーバとして指定したディレクトリについて) > [LDAP 設定] の順にクリックします。
 - 3b 必要に応じて [認証ユーザ名]、[認証パスワード]、[認証検索ルート] の設定を変更し、[保存] をクリックします。
詳細については、[22 ページの「LDAP 設定の編集」](#)を参照してください。
 - 3c [General(全般)] を選択し、有効な [ユーザ認証キー] を選択して、[保存] をクリックします。
 - 3d [管理者の役割] をクリックし、新しいログインサーバのユーザを使用して管理者の役割リストを変更します。
- 4 目的のディレクトリについて [認証グループ] を選択するか、選択解除します。

[認証グループ] を選択した場合、そのディレクトリにおける検索ではユーザの認証アカウント情報が使用されます。あるディレクトリの編集可能属性の変更をユーザおよびユーザ管理者に許可するには、そのディレクトリを認証グループの一部として設定する必要があります。

重要: あるディレクトリについて [認証グループ] を選択するのは、目的のユーザの識別名およびパスワードをディレクトリとログインサーバディレクトリの両方で使用できる場合だけにしてください。

[認証グループ] の選択を解除した場合は、そのディレクトリのデフォルトのプロキシアカウント情報が使用されます。

- 5 [保存] をクリックします。

LDAP データソースの設定と属性の編集

eGuide で LDAP データソースを使用するには、各種設定の調整、テンプレートキー名への属性のマッピング、ユーザが検索できる属性の決定、ユーザが自分で変更できる属性の決定などが必要です。

LDAP 設定の編集

- 1 管理ユーティリティで、[LDAP データソース] > [編集] (目的のディレクトリについて) > [LDAP 設定] の順にクリックします。
- 2 次の表を参照して、必要な変更を行います。

LDAP 設定

設定	目的
有効	ディレクトリを検索できるようにする場合に選択します。 [有効] の設定は [LDAP データソース] ページにも表示されます。
ディレクトリ名	ディレクトリを追加したときに指定されます。変更はできません。
ホスト名	LDAP サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を指定します。 重要: 初期設定後に、スキーマが同じように設定されている別の LDAP サーバを参照するようにホスト名を変更できます。スキーマの設定が異なる場合は、現在のディレクトリを削除し、新しいホスト名情報を使用して新しいディレクトリを追加します。
ポート	LDAP サーバのポート番号を指定します。
SSL を有効にする	SSL を有効にする場合に選択します。 重要: この設定が有効なのは、LDAP サーバ上で SSL を設定している場合だけです。
保護ポート	[SSL を有効にする] を選択した場合に、保護ポート番号を指定します。
検索ルート	検索ルートにするコンテナの識別名 (「o=acmecorp」など) を入力します。
サブコンテナを検索	ルートコンテナ内のサブコンテナで検索に含めるものを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">◆ [One(ルートレベル)]: 検索ルートレベルにあるすべてのエントリとルート識別名を含めます。◆ [Sub(サブレベル)]: ルートレベルよりも下位にあるすべてのエントリとルート識別名を含めます。

設定	目的
最大検索エントリ	1回の検索で得られる検索結果エントリの最大数を指定します。 効率よく検索するには、100～200の値を設定します。1000を超える値は設定しないでください。
プロキシユーザ名	LDAP形式（「cn=admin,o=acmecorp」など）を使用して検索プロキシ識別名を指定します。このフィールドを空白にした場合は、匿名アカウント情報またはLDAPサーバのプロキシアカウント情報（定義されている場合）がLDAPクエリで使用されます。
プロキシパスワード	検索プロキシのパスワードを指定します。
認証グループ	ディレクトリを認証グループに含める場合に選択します。eGuideでは、ユーザの認証されたアカウント情報を使用して認証グループのディレクトリにアクセスします。認証グループに含まれていないディレクトリに対しては、eGuideはデフォルトのプロキシアカウント情報を使用します。
認証ユーザ名	ログインサーバとして指定されたディレクトリを設定する場合にのみ有効です。 LDAP形式（「cn=admin,o=acmecorp」など）を使用して認証プロキシの識別名を入力します。eGuideのコンテキストレスログインでは、完全識別名の検索と識別にこのUserオブジェクトが使用されます。このフィールドを空白にした場合、すべてのコンテキストレスログインで匿名アカウント情報が使用されます。 重要： 認証プロキシとして割り当てるUserオブジェクトには、すべての識別名に対する読み込み権と、eGuideでログインサーバにおけるユーザ認証キーとして指定した属性に対する読み込み権が必要です。ユーザ認証キーの詳細については、 30 ページの「全般的なカスタマイズ設定の変更」 を参照してください。
認証パスワード	ログインサーバとして指定されたディレクトリを設定する場合にのみ有効です。 認証ユーザのパスワードを指定します。
認証検索ルート	ログインサーバとして指定されたディレクトリを設定する場合にのみ有効です。 認証アカウント情報の検索を開始するコンテナの識別名を指定します。

3 [保存] をクリックします。

LDAP 属性の編集

重要: 属性のマッピングと設定を変更する場合は、その属性を参照する他の eGuide の設定をすべて確認してください。特に、[Display Layout(表示レイアウト)] の設定に注意する必要があります。

- 1 管理ユーティリティで、属性を編集する検索カテゴリを選択します。

検索カテゴリを追加した場合 (25 ページの「[検索カテゴリの変更](#)」参照) を除いて、デフォルトの User カテゴリのみが使用できます。

- 2 [LDAP データソース] > [編集] (目的のディレクトリについて) > [属性] の順にクリックします。

- 3 次の表を参照して、必要な変更を行います。

設定	目的
有効	<p>ユーザが検索結果エントリをクリックしたときに表示される [詳細] パネルに属性を追加する場合に選択します。</p> <p>重要: XSL/ブラウザでレンダリングエラーが発生しないようにするため、バイナリ情報が含まれる属性の場合は [有効] を選択しないでください。ただし、Photo 属性は例外です。eGuide では、この属性は他のバイナリ属性とは異なる方法で扱われます。</p>
テンプレートキー	<p>これを使用すると、同様の属性が別々の LDAP ディレクトリ内に別の名前が存在する場合でも、eGuide で同様のものとして扱うことができます。たとえば、ユーザの姓を格納する属性について、ある LDAP データソースでは LastName が使用され、別の LDAP データソースでは SN が使用されている場合でも、LastName などのテンプレートキー名を作成すると、このキー名に LastName 属性と SN 属性の両方をマッピングすることができます。</p> <p>eGuide のデフォルトでは、eGuide セットアップウィザードの実行時に追加した最初のディレクトリの User カテゴリについて、Novell eDirectory™ の属性名がテンプレートキー名として使用されます。</p> <p>重要: 同じテンプレートキー名を複数の属性に割り当てないでください。</p>
検索可能	<p>属性を検索フィルタリストに追加し、ユーザがその属性について検索できるようにする場合に選択します。</p>

設定	目的
編集可能	<p>ログインサーバとして指定されたディレクトリ、または認証グループの一部として指定されたディレクトリについてのみ、選択できます。詳細については、21 ページの「ディレクトリの認証設定の変更」を参照してください。</p> <p>この属性を選択するのは、ユーザおよびユーザ管理者にその編集を許可する場合だけです。自己管理を有効にする方法については、29 ページの「制限」を参照してください。ユーザ管理者を指定する方法については、28 ページの「管理者の役割」を参照してください。</p> <p>重要 : eGuide の属性を [編集可能] に設定しても、LDAP データソース内でその属性について必要な権利がユーザおよびユーザ管理者に与えられるわけではありません。この機能が正しく動作するには、必要な権利をディレクトリレベルで与えておく必要があります。また、属性の編集をユーザに許可するには、自己管理を有効にする必要があります。詳細については、29 ページの「制限」を参照してください。</p>

4 ページの下部にある [保存] をクリックします。

Instant Messaging と NetMeeting における属性のマッピングと有効化

eGuide の [詳細] パネルから直接インスタントメッセージを送信する権利や NetMeeting を起動する権利をユーザに与えるには、いくつかの特別なテンプレートキー名をマッピングして、関連する属性を有効にする必要があります。

マッピングするテンプレートキー名	マッピング対象の LDAP 属性に含まれている情報
InstantMessagingID	AOL Instant Messaging の画面名
NetMeetingID	NetMeeting の ID
YahooIMID	Yahoo!* の ID

LDAP スキーマの更新

LDAP データソースのスキーマが eGuide に読み込まれるのは、最初のディレクトリを追加するときだけです。スキーマを変更した場合 (たとえばスキーマクラスに属性を追加した場合など)、変更内容を eGuide に反映させるには、スキーマを更新する必要があります。[LDAP データソース] > [編集] (目的のディレクトリについて) > [LDAP 設定] > [スキーマの更新] の順にクリックします。

注: eGuide では、LDAP データソースのスキーマは変更されません。

検索カテゴリの変更

eGuide では、LDAP クラスの組み合わせを表すために検索カテゴリを使用します。

たとえば、最初のディレクトリを eGuide に追加すると、User という検索カテゴリが作成されます。デフォルトでは、このカテゴリは InetOrgPerson、OrganizationalPerson、Person というクラスから構成されます。これらの User クラス内の属性は [属性] ページに表

示され、Eguide が eGuide クライアントで属性を設定する際に使用されます。また、User カテゴリラベル ([ユーザ検索]) は、eGuide クライアントの最初の検索フィルタドロップダウンリストに表示されます。

注：この InetOrgPerson、OrganizationalPerson、Person クラスは、追加した最初のディレクトリ内に存在する場合にのみ使用されます。

必要に応じて、既存のカテゴリ内でスキーマクラスの追加や削除を行うことができます。また、検索カテゴリ全体を追加または削除することもできます。

検索カテゴリに対するスキーマクラスの追加と削除

- 1 管理ユーティリティで、[LDAP データソース] > [編集] (目的のディレクトリについて) > [詳細] の順にクリックします。
- 2 変更するカテゴリを選択します。
- 3 カテゴリにスキーマクラスを追加するには、[使用可能] ボックスからクラスを選択し、右矢印をクリックして [選択済み] ボックスに移動します。
- 4 クラスを削除するには、手順 3 のプロセスを逆に行います。
- 5 カテゴリに対する必要な変更をすべて加えたら、[保存] をクリックします。

スキーマクラスの削除のみを行った場合、手順はこれで終了です。クラスを追加した場合は、手順 6 に進みます。

- 6 [属性] タブをクリックして、新しく追加したクラスの属性の設定とマッピングを編集します。

詳細については、[24 ページの「LDAP 属性の編集」](#)を参照してください。

重要：新しく追加した検索カテゴリに 1 つ以上のスキーマクラスを追加した場合、少なくとも 1 つの属性を有効にして、少なくとも 1 つの属性を検索可能にしない限り、ユーザはそのカテゴリに eGuide クライアントからアクセスできません。

- 7 eGuide クライアントの [検索]、[一覧]、[詳細]、[組織チャート] フォームで表示する属性を指定するには、[Display Layout(表示レイアウト)] を使用します。

詳細については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [31 ページの「\[属性\] フィルタリスト」](#)
- ◆ [32 ページの「\[高度な検索\] の設定」](#)
- ◆ [33 ページの「\[検索結果\] パネルの表示」](#)
- ◆ [33 ページの「\[情報\] タブの表示」](#)

- 8 eGuide クライアントの [カテゴリ] ドロップダウンリストに表示するテキストを変更します。

8a [Display Labels(ラベルの表示)] > [編集] (目的のリソースバンドルについて) の順にクリックします。

8b 「Object.category_name.Label」というテンプレートキー (category_name は新しいカテゴリの名前) を探して、表示するテキストを入力します。

8c [保存] をクリックします。

検索カテゴリの追加

- 1 管理ユーティリティで、[LDAP データソース] > [編集] (目的のディレクトリについて) > [詳細] > [新規] の順にクリックします。
- 2 新しいカテゴリの名前を指定します。

3 少なくとも 1 つのスキーマクラスを追加して、対応する属性を設定します。

詳細については、[26 ページの「検索カテゴリに対するスキーマクラスの追加と削除」](#)を参照してください。

4 [保存] をクリックします。

検索カテゴリの削除

1 管理ユーティリティで、[LDAP データソース] > [編集] (目的のディレクトリについて) > [詳細] の順にクリックします。

2 目的のカテゴリを選択します。

User は必須のカテゴリなので、eGuide では削除できません。

3 [*category_name* の削除] をクリックします。

属性ラベル

このページでは、特定の言語用のリソースバンドルを作成できます。各国語用にテキストラベルを編集することもできます。詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

表示

- ◆ [27 ページの「検索設定」](#)
- ◆ [27 ページの「レイアウトと順序」](#)
- ◆ [27 ページの「スキン」](#)
- ◆ [27 ページの「詳細」](#)

検索設定

このページでは、eGuide クライアントでユーザが通常の検索を行うときにプラス記号をクリックして高度な検索を行うときに表示される検索行の数を指定できます。詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

レイアウトと順序

このページには、設定されたすべてのディレクトリの検索カテゴリがすべて表示されません。ディレクトリの表示設定を表示および編集するには、[編集] をクリックし、[検索フォーム]、[一覧フォーム]、[詳細フォーム]、または [組織チャートフォーム] タブをクリックします。

スキン

eGuide には、標準のスキンが添付されています。自分に組織に合わせてカスタマイズしたスキンを設定することもできます。詳細については、[5 章 39 ページの、「スキンやテーマの追加」](#)を参照してください。

詳細

このページでは、eGuide の表示設定をさらに詳しく変更できます。終了したら [保存] をクリックしてください。

セキュリティ

- ◆ 28 ページの「管理者の役割」
- ◆ 29 ページの「制限」

eGuide のセキュリティ機能を使用すると、eGuide の設定や LDAP データソースの属性を変更する権利を持つユーザを指定できます。また、各種のセキュリティ制限を強制または削除できます。

管理者の役割

eGuide では、eGuide 管理者およびユーザ管理者という 2 種類の管理者の役割がサポートされます。

eGuide 管理者

eGuide 管理者として指定されたユーザが eGuide にログインすると、[管理ユーティリティ] アイコンが表示されます。eGuide 管理者はすべての管理機能にアクセスできます。

ユーザ管理者

ユーザ管理者として指定されたユーザの場合は、eGuide クライアントの [詳細] パネルに [情報の編集] ボタンが表示されます。ユーザ管理者は、[情報の編集] をクリックして [編集] パネルを表示した後で、次の条件を満たす属性を編集できます。

- ◆ 管理ユーティリティの [属性] ページで [編集可能] が選択されている属性
- ◆ 管理ユーティリティでログインサーバまたは認証グループの一部として指定されているディレクトリに属する属性
- ◆ LDAP データソース内でユーザ管理者に書き込み権が与えられているために変更できる属性

ユーザ管理者の場合、[編集] パネルの [マネージャ] フィールドの横にアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、2 番目の参照ウィンドウが表示されます。この参照ウィンドウで、[マネージャ] フィールドに入力するユーザ名を検索および選択できます。

重要: 参照機能を動作させるには、管理ユーティリティで、User カテゴリの Manager 属性と IsManager 属性を [有効] かつ [編集可能] に設定する必要があります。

管理者一覧へのユーザの追加

- 1 [管理者の役割] > [編集] (目的の管理者リストについて) の順にクリックします。
- 2 ユーザのログイン ID の一部を入力して、[検索] をクリックします。
- 3 [使用可能] ボックスでユーザの名前をクリックし、右矢印をクリックしてその名前を [選択済み] ボックスに移動します。
- 4 [リストの保存] をクリックします。

管理者一覧からのユーザの削除

- 1 [管理者の役割] > [編集] (目的の管理者リストについて) の順にクリックします。
- 2 [選択済み] ボックスでユーザの名前をクリックし、左矢印をクリックしてその名前を [使用可能] ボックスに移動します。
- 3 [リストの保存] をクリックします。

制限

次の表に [制限] ページの各設定の詳細を示します。

設定	目的
アカウント情報の保存を許可	ユーザがログインしたときに [ログイン情報の記憶] チェックボックスがログインページに表示されるようにするには、このオプションを選択します。ユーザがこのチェックボックスを選択した場合、ユーザの有効なアカウント情報が暗号化され、ユーザのワークステーション上で cookie に保存されます。このようにすると、ユーザはログインしなくても eGuide をロードできるようになります。cookie は、ユーザが [ログアウト] アイコンをクリックするか cookie の有効期限が終了すると削除されます。
cookie の有効期限	ログイン試行とログイン試行の間でログイン情報 cookie の期限が切れるまでの秒数を入力します (1 日 = 86,400 秒)。
ユーザの強制認証	eGuide にログインするすべてのユーザに強制するには、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場合、eGuide は匿名モードでロードされます。その場合、ユーザは [eGuide へのログイン] アイコンをクリックするとログインできます。 注: [アカウント情報の保存を許可] が選択されていて、ログイン情報 cookie を使用できる場合、ユーザは再認証を強制されません。
パスワード変更用リンクを表示	eGuide クライアントの [編集] パネルで [パスワードの変更] リンクを使用可能にする場合に選択します。また、このオプションを選択すると、ユーザ管理者はユーザパスワードを変更できるようになります。 重要: ユーザが [編集] パネルにアクセスできるようにするには、[自己管理を許可] を選択する必要があります。
自己管理を許可	ユーザが編集可能属性 ([属性] ページで [編集可能] を選択した属性) を変更できるようにするには、このオプションを選択します。[自己管理を許可] を選択すると、eGuide クライアントの [個人情報の表示] アイコンが [個人情報の編集] アイコンに変化します。
組織チャートを表示	すべてのユーザについて [詳細] パネルで [組織チャート] を有効にする場合に選択します。組織チャートには、現在選択しているユーザのマネージャと、そのマネージャのすべての直接報告が表示されます。詳細については、 33 ページの「[組織チャート] タブの表示」 を参照してください。

レポート機能

- ◆ 30 ページの「デバッグ」
- ◆ 30 ページの「メール設定」

デバッグ

このページでは、eGuide サブレットの現在のセッションに関するすべての診断情報を eGuide/web-inf/logs ディレクトリのログファイルに出力するように設定できます。

メール設定

このページでは、LDAP データソースで属性が変更されたときにネットワーク管理者に電子メールが送信されるようにメールサーバ情報を指定できます。

eGuide のインタフェースと使用方法

このセクションでは、次のようなカスタマイズ作業について説明します。

- ◆ 30 ページの「全般的な表示と動作」
- ◆ 31 ページの「検索」
- ◆ 33 ページの「[詳細] パネル」
- ◆ 34 ページの「ラベル」

全般的な表示と動作

- ◆ 30 ページの「全般的なカスタマイズ設定の変更」
- ◆ 31 ページの「色スキーマの変更」

全般的なカスタマイズ設定の変更

eGuide の全般的なカスタマイズ設定を変更するには、[General(全般)] をクリックし、必要な変更を行ってから [保存] をクリックします。各設定の詳細については、次の表を参照してください。

設定	目的
現在のテーマ	<p>テーマは、eGuide クライアントのレイアウトと外観を決定する表示設定から構成されます。eGuideに含まれるのはDefaultというテーマだけです。このテーマをテンプレートに使用して独自のテーマを作成できます。詳細については、5章 39 ページの「スキンやテーマの追加」を参照してください。</p> <p>作成したテーマは、[現在のテーマ] ドロップダウンリストに追加されます。このドロップダウンリストからテーマを選択できます。</p> <p>注：現在のテーマで使用する色を変更するには、[Colors(色)] 機能を使用します。詳細については、31 ページの「色スキーマの変更」を参照してください。</p>

設定	目的
ユーザ認証キー	デフォルトでは、最初に設定するディレクトリにおけるデフォルトの User カテゴリのユーザ認証キーとして CN 属性が使用されます。ログインのために他の属性 (電子メールアドレスなど) を使用する場合は、この選択を変更します。
ホームページのリンク	ユーザが eGuide クライアントで [Custom Home Link(カスタムホームリンク)] アイコンをクリックしたときに表示されるページの URL を指定します。
自動編集を有効にする	認証を受けたユーザとユーザ管理者が検索結果リストのユーザ名をクリックしたときに、通常の [詳細] パネルを表示するのではなく、[変更] フォームに直接アクセスできるようにする場合に選択します。

色スキーマの変更

eGuide の各種の表示要素に使用する色を変更するには、[Colors(色)] をクリックし、色スキーマを選択してから [保存] をクリックします。

ヒント：新しい色スキーマをダウンロードしてインストールする方法と、独自の色スキーマを作成する方法の詳細については、[39 ページの付録 5、「スキンやテーマの追加」](#)を参照してください。

検索

ユーザが eGuide クライアントで検索を行うには、3 種類ある検索フィルタのいずれかを選択し、検索するテキストを入力して、[検索] をクリックします。検索フィルタはドロップダウンリスト形式になっており、[カテゴリ]、[属性]、[検索制約] の 3 種類があります。以下のセクションでは、これらのフィルタをカスタマイズする方法について説明します。また、[高度な検索] の設定と [検索結果] パネルをカスタマイズする方法についても説明します。

[カテゴリ] フィルタのラベル

[カテゴリ] フィルタには、定義されているカテゴリがすべて表示されます。デフォルトでは、必須の User カテゴリについて [ユーザ検索] ラベルが [カテゴリ] フィルタリストに表示されます。eGuide に追加したカテゴリの場合、指定したカテゴリ名が [カテゴリ] フィルタリストに表示されるデフォルトのラベルになります。

[カテゴリ] フィルタのラベルを変更するには、[Display Labels(ラベルの表示)] 機能を使用します。詳細については、[34 ページの「ラベルテキストの編集」](#)を参照してください。

[属性] フィルタリスト

ユーザは、[属性] 検索フィルタを使用して、検索する属性 (姓や部署など) を選択します。[属性] フィルタには検索可能な属性がアルファベット順に含まれており、いずれかの属性がデフォルトで選択されています。[属性] ページで [検索可能] に設定したすべての属性が、[属性] フィルタリストに表示されます。

リストに表示する属性を変更するには、[検索可能] の設定を変更します。詳細については、[24 ページの「LDAP 属性の編集」](#)を参照してください。

デフォルトの検索属性を変更するには、次の手順に従います。

- 1 管理ユーティリティで、[Display Layout(表示レイアウト)] > [編集] (目的のカテゴリについて) > [検索フォーム] の順にクリックします。

[検索フォーム] ページを表示しようとするときアクセスエラーが発生する場合は、編集しているカテゴリで少なくとも 1 つの属性が [検索可能] に設定されていることを確認してください。

- 2 目的の属性をクリックして、その属性がリストの一番上になるまで上矢印をクリックします。

重要: 属性が [検索属性 (順序指定)] ボックスに表示されるようにするには、[属性] ページでその属性を [有効] と [検索可能] の両方に設定する必要があります。

- 3 [保存] をクリックします。

属性の順序は [属性] フィルタドロップダウンリストにおける表示順序に影響を与えません。このリストでは、属性は常にアルファベット順に表示されます。ただし、[32 ページの「\[高度な検索\] の設定」](#) で説明されているように、[高度な検索] には属性の順序が影響します。

検索制約

デフォルトでは、すべての検索制約 ([~で始まる]、[含む]、[等しい] など) を検索に使用できます。

検索制約を削除または追加するには、次の手順に従います。

- 1 [管理ユーティリティ] で、[サーチプロパティ] をクリックします。
- 2 検索制約をクリックし、矢印をクリックしてその検索制約をもう一方のボックスに移動します。

[検索制約] フィルタには、[選択済み] ボックスの検索制約が表示されます。[使用可能] ボックスの検索制約は表示されません。

検索行の数

デフォルトでは、1 行の検索条件 ([カテゴリ]、[属性]、および [検索制約] フィルタ) が通常の検索に含まれます。この行の数を増やすと、ユーザはプラスアイコンをクリックして [高度な検索] を選択しなくても高度な検索が行えるようになります。高度な検索では、複数の検索条件行がブール演算子 (AND または OR) で結び付けられます。

通常の検索で行の数を増やすには、次の手順に従います。

- 1 管理ユーティリティで、[サーチプロパティ] をクリックして [デフォルトの検索行] の数を調整します。
- 2 [保存] をクリックします。

【高度な検索】の設定

デフォルトでは、プラスアイコンをクリックして [高度な検索] を選択すると、3 行の検索条件が表示されます。

[高度な検索] の行数を変更するには、次の手順に従います。

- 1 管理ユーティリティで、[サーチプロパティ] をクリックして [高度な検索行] の数を変更します。
- 2 [保存] をクリックします。

各行のデフォルトの [属性] フィルタを変更するには、次の手順に従います。

- 1 管理ユーティリティで、[Display Layout(表示レイアウト)] > [編集] (目的のカテゴリについて) > [検索フォーム] の順にクリックします。
- 2 属性を選択し矢印で移動して、リストの順序を変更します。
リストの先頭にある属性が [高度な検索] の 1 行目のデフォルト検索属性になり、2 番目の属性が 2 行目に表示されます。
- 3 [保存] をクリックします。

【検索結果】 パネルの表示

- 1 [管理ユーティリティ] で、[Display Layout(表示レイアウト)] > [編集] (目的のカテゴリについて) > [一覧フォーム] の順にクリックします。
- 2 [検索結果] パネルの各列に表示する属性を 4 つまで選択します。
重要: [属性] ページで [有効] を指定していない属性は、列見出しとして選択できません。属性を有効にする方法については、[24 ページの「LDAP 属性の編集」](#)を参照してください。

【詳細】 パネル

eGuide クライアントの [詳細] パネルは、[情報] タブと [組織チャート] タブから構成されています。これらのタブに表示する情報はカスタマイズできます。

【情報】 タブの表示

ユーザが検索結果をクリックすると、[詳細] パネルの [情報] タブに属性 (姓、名、部署、電話番号など) のリストが表示されます。

[属性] ページで [有効] を選択したすべての属性が [情報] タブに表示されます。表示する属性を変更するには、その属性の [有効] の設定を変更します。詳細については、[24 ページの「LDAP 属性の編集」](#)を参照してください。

[情報] タブに属性を表示する順序を変更するには、次の手順に従います。

- 1 管理ユーティリティで、[Display Layout(表示レイアウト)] > [編集] (目的のカテゴリについて) > [詳細フォーム] の順にクリックします。
- 2 属性をクリックし、上矢印または下矢印をクリックして目的の位置に移動します。
- 3 必要な変更がすべて終了したら、[保存] をクリックします。

【組織チャート】 タブの表示

組織チャートの構成は、Manager 属性と IsManager 属性によって制御されます。ユーザの Manager 属性の識別名は、そのユーザの報告先となるユーザを示します。ユーザの IsManager 属性の値が True の場合、そのユーザはマネージャで、組織チャート内でマネージャ間を移動するための [Reports To(報告先)] リンク (左矢印アイコン) は有効になります。

デフォルトでは、ユーザのフルネーム (FirstName、MI、SN 属性を組み合わせたもの) と役職 (指定されている場合) のみが組織チャートに表示されます。フルネーム以外に 4 つまでの属性を表示するには、次の手順に従います (Title のみデフォルトで選択されています)。

- 1 管理ユーティリティで、[Display Layout(表示レイアウト)] > [編集] (目的のカテゴリについて) > [組織チャートフォーム] の順にクリックします。

- 2 ユーザのフルネームとともに表示する属性を選択します。
選択できるのは、[属性] ページで [有効] を選択した属性だけです。
- 3 [保存] をクリックします。

ラベル

LDAP オブジェクトおよび属性に対応するラベル (テキスト文字列) と、eGuide クライアントの全般的な表示 (フィールドラベル、ボタン、メッセージなど) に対応するラベルは、カスタマイズできます。eGuide クライアントでサポートする必要がある各言語について、ラベルのセット (リソースバンドル) を設定できます。

言語リソースバンドルの追加

- 1 管理ユーティリティで、[表示ラベル] > [新規] の順にクリックします。
 - 2 2文字の標準言語コードを入力します (必須) 。
 - 3 2文字の標準国コードを入力します (オプション) 。
- 重要:** ユーザのブラウザが対応しているかどうかわからない国コードは使用しないでください。ここで設定する言語コードと国コードは、ユーザのブラウザの同じ言語のコードと正確に一致している必要があります。
- 4 [保存] をクリックします。

eGuide クライアントを起動すると、ブラウザの言語コードと国コードがチェックされ、一致するコードがある場合はそのリソースバンドルが使用されます。一致するものが見つからない場合は、アメリカ英語のリソースバンドルが使用されます。

ラベルテキストの編集

- 1 管理ユーティリティで、[Display Labels(ラベルの表示)] > [編集] (目的のリソースバンドルについて) の順にクリックします。
- 2 [属性ラベル] または [General Labels(一般ラベル)] をクリックします。
- 3 必要な変更を行います。
- 4 ページの下部にある [保存] をクリックします。

デバッグレポート

- ◆ Novell eGuide サーブレットの現在のセッションに関するすべての診断情報を eGuide\web\inf\logs ディレクトリのログファイルに出力するには、[デバッグ] をクリックし、[デバッグ] を選択して [保存] をクリックします。
- ◆ ディレクトリから戻された動的な XML ドキュメントをサーバコンソールに表示し、アクティブなログファイルに出力するには、[デバッグ] をクリックし、[XML] を選択して [保存] をクリックします。

[XML] を選択すると、クライアントリクエストが発生するたびに XSL スタイルシートがディスクから強制的に再ロードされます。これは、カスタマイズされたスタイルシートを開発およびテストしている場合に特に便利です。

重要: [DEBUG] をオンにすると、eGuide のパフォーマンスが低下します。パフォーマンス効率を高めるには、[デバッグ] をオフにしてください。

属性フィルタの使用

[属性のフィルタ] タブでは、検索を調整できます。たとえば、アクティブでないユーザをすべて eGuide の検索から除外する場合があります。これを行うには、次の手順に従います。

- 1 管理ユーティリティで、**employeestatus** 属性のフィルタを有効にします。
- 2 検索条件を [等しい] に設定します。
- 3 [検索] の値を [アクティブ] に設定します。

または

- 1 **employeestatus** 属性のフィルタを有効にします。
- 2 検索条件を [次と等しくない] に設定します。
- 3 [検索] の値を [管理者] に設定します。

別の例として、すべての管理者ユーザを eGuide の検索から除外する場合があります。

- 1 CN 属性のフィルタを有効にします。
- 2 検索条件を [次と等しくない] に設定します。
- 3 [検索] の値を [管理者] に設定します。

別の例として、サイトに特有なユーザを eGuide の検索に含める場合があります。

- 1 City 属性のフィルタを有効にします。
- 2 検索条件を [等しい] に設定します。
- 3 [検索] の値を「San Jose」など特定のサイトに設定します。

4

eGuide クライアントへのアクセス

クイックセットアップウィザードが終了し、管理ユーティリティがブラウザに表示されている場合は、[Launch Novell eGuide Client(Novell eGuide クライアントの起動)] アイコンをクリックすると eGuide クライアントにアクセスできます。

これ以外の場合に eGuide クライアントにアクセスするには、ブラウザで次の URL を指定します。

`http://web_server/eGuide`

`web_server` の部分は、eGuide をインストールした Web サーバのホスト名または IP アドレスに置き換えてください。

重要: この URL では、大文字と小文字が区別されます。このとおり正確に入力してください(「eGuide」の「G」は大文字で他は小文字です)。

5

スキンやテーマの追加

スキンやテーマを追加すると、Novell® eGuideクライアントのユーザインタフェースの外観をさらにカスタマイズできます。

スキンの追加

スキンは、eGuide ページの外観を決定するスタイルシートです。追加のスキンファイルは、eGuide の Web サイト からダウンロードできます。ダウンロードしたスキンファイルをインストールするには、現在選択しているテーマテンプレートフォルダにそのファイルを配置します。デフォルトでは、このフォルダは `eguide\web-inf\templates\xsl\default\browser` にあります。

独自のスキンファイルを作成するには、テキストエディタを使用して、既存のスキンファイルをコピーして修正します。スキンファイルには、次の表に示すような XML 定義が含まれています。

設定	定義の対象
ImgTheme	イメージファイルに関連付けることができる文字列。 デフォルトでは、ImgTheme は <code>Logo_theme_name</code> イメージファイルの定義に使用されますが、選択したスキンに基づいて他のファイルを動的に変更するために使用することもできます。
Dominant	[検索結果] パネルなど多くの表示要素で使用する主要な色。
Subordinate	見出しの背景色。
Accent	選択したタブの色。
DominantHighlight	[検索結果] パネルなど多くの表示で使用する強調色。
Link	[詳細] パネル内のテキストリンクの色。
ReverseText	見出しアイコン上にマウスカーソルを移動したときのテキスト色。

テーマの追加

テーマは、eGuide 内で変化しない部分です。通常は、会社や組織のロゴを表示するために使用されます。

テーマを追加すると、eGuide クライアントの外観とレイアウトを完全にカスタマイズできます。たとえば、フレームがないテーマ、レイアウト (表示要素の配置) が異なるテーマ、[ユーザ検索] 以外の特定のカテゴリについて検索するようにカスタマイズしたテーマなどを作成できます。

色の変更のみが必要な場合は、スキンファイルを追加します。詳細については、[39 ページの「スキンの追加」](#)を参照してください。

重要: テーマをカスタマイズするには、XSLT、HTML、JavaScript[®]、CSS などの HTML 関連技術に関する詳しい知識が必要です。さらに、問題がスタイルシートに関係ない場合を除いて、Novell[®] はカスタマイズされたテーマに関連する問題をサポートできません。そのため、サポートが得られるようにするには、既存の Default テーマを修正するのではなく、新しいテーマを作成する必要があります。このようにすると、作成したテーマで問題が発生しても、Default テーマに戻ることができます。

テーマは、`\eguide\web-inf\templates\xsl` および `\eguide\look` という 2 つのテーマディレクトリ内にある複数のファイルから構成されます。どちらのパスも、eGuide のインストール先ディレクトリへの相対パスです。

新しいテーマを作成するには、次の手順に従います。

- 1 xsl ディレクトリのデフォルトディレクトリをコピーして名前を変更します。
- 2 look ディレクトリのデフォルトディレクトリをコピーして名前を変更します。

重要: 新しいテーマディレクトリは、XSL ディレクトリと LOOK ディレクトリで正確に同じ名前にする必要があります。

新しいディレクトリを作成すると、管理ユーティリティの [現在のテーマ] ドロップダウンリストにディレクトリ名が表示されます。テーマを選択する方法については、[30 ページの「全般的なカスタマイズ設定の変更」](#)を参照してください。

警告: デフォルトのディレクトリまたは adminutil テーマディレクトリの内容は変更しないでください。

- 3 必要に応じて、xsl ディレクトリ内にある新しいテーマディレクトリのテンプレートファイルを修正します。

テンプレートを修正するときは通常、eGuide サーバの xml 出力を表示する必要があります。XSL デバッグをオンにすると、`\eguide\web-inf\logs` フォルダ内のログファイルと eGuide のサーバコンソールの両方に xml 出力を表示できます。詳細については、[34 ページの「デバッグレポート」](#)を参照してください。

- 4 必要に応じて、Look ディレクトリ内にある新しいテーマディレクトリのイメージ、HTML、CSS、および JavaScript ファイルを修正します。

6

役割ベースサービスの使用

役割ベースサービス (RBS) を使用すると、ユーザは Novell iManager ユーティリティを使用して Novell® eDirectory™ 内にある自分の個人情報を管理できるようになります。

RBS の詳細については、『*iManager 2.0 管理ガイド* (<http://www.novell.com/documentation/japanese/imanager20/index.html?page=/documentation/japanese/imanager20/imanager20/data/am757mw.html>)』を参照してください。

A Web サーバとツール

Novell® eGuide は、次の Web サーバ上で実行できます。

- ◆ Apache
- ◆ Microsoft Internet Information Services (IIS)

NetWare 6.5 の場合、Apache と Tomcat はデフォルトでインストールされます。

Apache の詳細については、[Apache Software Foundation の Web サイト \(http://www.apache.org\)](http://www.apache.org) を参照してください。

Microsoft Internet Information Services の詳細については、[Microsoft の Web サイト \(http://www.microsoft.com\)](http://www.microsoft.com) を参照してください。

B

Eguide.cfg ファイル内の設定

次の表に、Novell® eGuide設定ファイル(eguide.cfg)に含まれている設定の説明を示します。
eguide.cfg ファイルは、...\\webapps\\eGuide\\web-inf\\config ディレクトリ内にあります。

重要： 負荷分散の設定は、両方がファイルに記述されていてアクティブになっていない限り (コメントが解除されていない限り)、どちらも機能しません。

設定	指定する内容
負荷分散	
Load.Max.Users= <i>n</i>	同時に許容される eGuide セッションの最大数 (<i>n</i>)。
Load.Redirect.URL= <i>URL</i>	次の eGuide サーバの URL。
ログ	
Log.Console.Enable= <i>true/false</i>	コンソールログを有効にするかどうか (有効にする場合は「true」)。
Log.Enable= <i>true/false</i>	ファイルログを有効にするかどうか (有効にする場合は「true」)。
Log.Language= <i>language_code</i>	ログファイルの言語 (2 文字の ISO 言語コード)。
Log.Level= <i>level_name</i>	ログレベル。 有効なレベル名は normal、verbose、diagnostic です。
Log.Max.Age= <i>n</i>	ログファイルを保持する日数 (<i>n</i>)。
Log.Max.Size= <i>n</i>	ログディレクトリ内の全ファイルの最大合計サイズ (<i>n</i> はキロバイト単位)。 最大サイズを超えると、最も古いファイルが削除されます。
Log.Path= <i>path</i>	ログファイルが書き込まれるディレクトリへのパス。
Log.TimeStamp= <i>date/time format</i>	ログファイルエントリのタイムスタンプの形式。 日付/時刻の形式を定義する方法については、Java のマニュアルの SimpleDateFormat を参照してください。

設定	指定する内容
セキュリティ	
Security.Timeout= <i>n</i>	ユーザのセッションがタイムアウトになるまでの時間 (単位は分)。
Security.UseClientIP.Enabled= <i>true/false</i>	<p>サーブレットがユーザのブラウザセッションを識別する方法を、ユーザクライアントの IP アドレスを使用して設定するかどうか。</p> <p>デフォルト設定は「true」です。「false」に設定するのは、不正なハッシュエラーが発生する場合だけにしてください。</p> <p>重要: eGuide とともに Novell iChain[®] を使用している場合は、「false」に設定する必要があります。</p>
その他	
CharSet.Default= <i>character_set</i>	<p>デフォルトの文字セット。</p> <p>この設定は、ブラウザが検出した文字セットよりも優先されます。UTF-8 文字セットの場合のみ使用してください。他の設定は、すべて自動的に検出されます。</p>
Config.Update.Check= <i>n</i>	<p>eguide.cfg ファイルが変更されたかどうかを eGuide がチェックする間隔 (単位は分)。</p> <p>これによって、管理者は設定を変更するために eGuide サーブレットを停止する必要がなくなります。</p>
WebApp.Home.Path	ルートから Web アプリケーションのコンテキストまでのフルパス名。

C

LDAP 接続用の SSL の設定と使用

Novell® の Web ベースアプリケーション (iManager や eGuide など) と LDAP データソースの接続にプレーンテキストやクリアテキストではなく SSL 接続を使用する場合は、このセクションの指示に従ってください。

- ◆ 47 ページの「手順 1: Sun Microsystems から JSSE パッケージをダウンロードしてセットアップする」
- ◆ 48 ページの「手順 2: セキュリティオブジェクトでプロバイダを設定する」
- ◆ 48 ページの「手順 3: SSL をサポートするように LDAP サーバを設定する」
- ◆ 48 ページの「手順 4: LDAP グループオブジェクトを設定する」
- ◆ 48 ページの「手順 5: ルート認証局証明書をエクスポートする」
- ◆ 49 ページの「手順 6: ルート認証局証明書をインポートする」
- ◆ 49 ページの「手順 7: Tomcat 環境設定ファイルを編集する」
- ◆ 50 ページの「手順 8: eMFrame.cfg ファイルを変更する」
- ◆ 50 ページの「手順 9(オプション): SSL を使用するように eGuide を設定する」

重要 : SSL 接続は、プレーンテキスト接続やクリアテキスト接続よりも低速です。SSL を使用すると、パフォーマンスが著しく低下する場合があります。

この手順は、使用しているサーバのプラットフォームによって異なります。プラットフォームごとの違いについては、各手順で説明します。

手順 1: Sun Microsystems から JSSE パッケージをダウンロードしてセットアップする

Windows と UNIX の場合

NetWare® 6 以降、JDK* バージョン 1.4、または iManager 1.5 を所有している場合は、必要なソフトウェアをすでに持っているはずです。

- 1 サーバ上に JSSE (Java Secure Socket Extension) パッケージがあるかどうか確認します。
JSSEをダウンロードするには、[java.sun.com](http://java.sun.com/products/jsse)のWebサイト (<http://java.sun.com/products/jsse>) にアクセスします。
- 2 Java の `jre\lib\ext` フォルダに次のファイルを追加します。
 - ◆ `jsse.jar`
 - ◆ `jnet.jar`
 - ◆ `jcrt.jar`

手順 2: セキュリティオブジェクトでプロバイダを設定する

すべてのプラットフォームに共通

セキュリティオブジェクトのプロバイダは、セキュリティプロパティファイル (jre\lib\security\java.security) で静的に設定できます。

プロバイダを静的に設定するには、セキュリティプロパティファイルで次の行を探します。

```
security.provider.1=sun.security.provider.Sun
```

この行の直後に次の行を追加します。

```
security.provider.x=com.sun.net.ssl.internal.ssl.Provider
```

x は次のシーケンシャル番号です (例:

```
security.provider.2=com.sun.net.ssl.internal.ssl.Provider)。
```

重要: SSL が正しく動作するには、この両方の行が必要です。

手順 3: SSL をサポートするように LDAP サーバを設定する

すべてのプラットフォームに共通

- 1 iManager で、[役割およびタスク] > [LDAP Management(LDAP 管理)] > [LDAP Overview(LDAP の概要)] > [View LDAP Servers(LDAP サーバの表示)] の順に選択し、目的の LDAP サーバを選択して [Connections(接続)] を選択します。
- 2 [サーバ証明書] フィールドで SSL Certificate オブジェクトを選択します。
注: これらのオブジェクトは、Novell eDirectory™ のインストール時に作成されます。
- 3 SSL ポートの番号 (通常は 636) をメモしておきます。
- 4 変更を保存します。
- 5 もう一度 LDAP サーバのプロパティにアクセスして、[情報] タブの [リフレッシュ] をクリックします。

手順 4: LDAP グループオブジェクトを設定する

すべてのプラットフォームに共通

- 1 iManager で、[役割およびタスク] > [LDAP Management(LDAP 管理)] > [LDAP Overview(LDAP の概要)] > [View LDAP Groups(LDAP グループの表示)] の順に選択し、目的の LDAP グループを選択して [情報] を選択します。
- 2 [パスワードとの単純バインドに TLS を必要とする] チェックボックスをオンにして TLS を有効にします。

手順 5: ルート認証局証明書をエクスポートする

すべてのプラットフォームに共通

- 1 ConsoleOne® で、手順 3 で設定した SSL Certificate オブジェクトのプロパティにアクセスします。
- 2 [証明書] > [ルート認証局証明書] の順にクリックします。
- 3 [エクスポート] をクリックして、ファイルをバイナリ DER 形式で保存します (通常の名前は trustedrootcert.der です)。

手順 6: ルート認証局証明書をインポートする

この手順では、keytool を使用するために JDK* が必要になります。iManager とともに JRE をインストールした場合は、keytool を使用するために JDK をダウンロードする必要があります。

ここで、ルート認証局証明書を cacerts ファイルまたは jssecacerts ファイルにインポートする必要があります。

- 1 Java ホームフォルダの lib\security フォルダから cacerts ファイルまたは jssecacerts ファイルを探します。
- 2 Java ホームフォルダの bin フォルダから keytool を探します。
重要: keytool は、JVM 1.3 以降に付属しているものを使用する必要があります。JVM 1.2.2 以前に付属している keytool は動作しません。
- 3 プラットフォームに応じて、次のいずれかの keytool コマンドを実行します。

NetWare の場合

```
keytool -import -alias alias_name -file full_path
\trustedrootcert.der -keystore sys:java\lis\security\cacerts
```

Windows の場合

```
keytool -import -alias [alias_name] -file
[full_path]\trustedrootcert.der -keystore keystore
[full_path]\jre\lib\security\cacerts
```

UNIX の場合

```
keytool -import -alias [alias_name] -file [full_path]/
trustedrootcert.der -keystore
[full_path]/jre/lib/security/cacerts
```

[*alias_name*] は、この証明書に固有な名前に置き換えてください。trustedrootcert.der と cacerts については、フルパスを指定してください。

重要: keystore のパスワードを入力するよう求められます。変更していない場合のデフォルトは changeit です。

手順 7: Tomcat 環境設定ファイルを編集する

NetWare の場合

NetWare の場合、この手順は必要ありません。

Windows と UNIX の場合

Tomcat 用にセキュア (SSL) HTTP コネクタを設定するには、\$tomcat_home/conf/server.xml ファイル内で有効になるように設定します。Tomcat に付属しているこのファイルの標準バージョンには簡単な例が含まれており、デフォルトではコメントになっています。

Tomcat 3.3 の構文

```
<Http10Connector
  port="8443"
  secure="true"
  keystore="/usr/java/jre/lib/security/cacerts"
  clientAuth="false" />
```

手順 8: eMFrame.cfg ファイルを変更する

すべてのプラットフォームに共通

- 1 iManager のインストール先 Web/ミドルウェアサーバの eMFrame\web-inf ディレクトリにある eMFrame.cfg ファイルを開きます。
- 2 次のステートメントを探します。
Provider.emFrame.ssl=false
- 3 「false」を「true」に置き換えます。
- 4 ファイルを保存して、終了します。
- 5 Tomcat と Web サーバを再起動します。

手順 9(オプション): SSL を使用するように eGuide を設定する

すべてのプラットフォームに共通

- 1 Web ブラウザで Novell eGuide 管理ユーティリティを開きます。
- 2 [LDAP データソース] > [編集] (目的のディレクトリについて) > [LDAP 設定] の順にクリックします。
- 3 [SSL を有効にする] を選択します。
- 4 LDAP サーバの設定時にメモした LDAP サーバのポート番号を [保護ポート] に入力します。
- 5 [保存] をクリックします。
[保存] をクリックするとエラーメッセージが表示されたりコンピュータがハングする場合は、SSL の設定手順をすべてやり直して、設定が完全に正しいことを確認してください。次に、eGuide のハングを引き起こす誤った設定の例を 2 つ示します。
 - ◆ プレーンテキスト接続を使用して SSL ポートで通信しようとしている
 - ◆ SSL 接続を使用してプレーンテキストポートで通信しようとしている

D UIハンドラ

このセクションでは、Novell® eGuide で使用するユーザインタフェース (UI) ハンドラについて説明します。UI ハンドラは、指定された方法またはカスタマイズされた方法で LDAP データソースの情報を表示します。

UIハンドラは、それぞれの条件に合わせて作成およびカスタマイズすることもできます。たとえば、クリック可能なリンクとしてユーザの電子メールアドレスを表示したいと考える会社もあれば、静的なテキストとして情報を表示したいと考える会社もあります。

eGuide には、基本的な UI ハンドラのセットが付属しています。UI ハンドラは、属性名自体に関連付けることも LDAP ディレクトリ構文に関連付けることもできます。

属性名に関連付けられる UI ハンドラ

注: アスタリスク (*) は、属性のデフォルトハンドラを示します。

名前	説明	属性による関連付け
URL プロジェクトリンク	プロジェクトリンクの編集と表示に使用できます。プロジェクトリンクはラベルと URL から構成され、ラベル付き URL 形式を使用して LDAP に保存されます。このハンドラの表示モードでは、クリック可能な URL に対するリンクとしてラベルが表示されます。このハンドラに関連付けられている属性を編集すると、別々のテキストボックスにラベルと URL を入力するよう要求されます。	LABELEDURI
電子メールリンク	HTML の mailto: タグを使用して、クリック可能なリンクとして属性を表示します。このリンクをクリックすると、デフォルトの電子メールクライアントが起動します。	EMAIL* CELLPHONEEMAIL*
テキスト領域の入力	オブジェクトの説明や要約の配置に使用できます。属性情報はオブジェクト詳細の見出しに表示され、HTML の TextArea として編集されます。	DESCRIPTION*
テキストボックス (単一値、編集のみ)	UI ハンドラが編集モードでない場合は、属性を非表示にします。編集モードの場合は、HTML の TextBox を使用して単一値の文字列のみを入力できます。	GIVENNAME* INITIALS* LASTNAME* TITLE*
Yahoo IM ランチャ (ブラウザ使用)	Yahoo のインターネットクライアントをブラウザから起動するインスタントメッセージリンクを表示します。	YAHOOIMID
AOL AIM ランチャ (アプリケーション使用)	AIM (AOL Instant Messaging) アプリケーションを起動するインスタントメッセージリンクを表示します。このハンドラでは、AIM クライアントはインストール済みであると仮定しています。	INSTANTMESSAGINGID

名前	説明	属性による関連付け
米国式住所とマップリンクの結合	住所属性を米国の標準的な郵便形式で表示します。POSTALCODE を指定した場合、このハンドラは住所に対するマップリンクを作成します。このハンドラは、STREET 属性によってソートされます (編集モードのみ)。関連する属性には CITY、ST、POSTALCODE、CO があります。これらの属性を表示する必要がある場合は、このハンドラを使用する必要があります。	STREET ST CITY POSTALCODE CO
属性の非表示	選択すると、関連付けられている属性が非表示になります。この方法は、detail.xml ドキュメントで使用する属性がリストには表示されないようにする場合に便利です。属性が不要な場合は、このハンドラを使用するのではなく、その属性を完全に無効にしてください。	USERPASSWORD* CN* PHOTOAGREE*
名前の結合	GIVENNAME、INITIALS、および LASTNAME に分割されたユーザのフルネームを結合します。これらの属性は、すべて有効かつ編集可能である必要があります。順序は、LASTNAME テンプレートキーによって制御されます。現在編集中でない属性は名前結合属性によって非表示になるので、詳細見出しのみで表示できます。	GIVENNAME INITIALS LASTNAME
バイナリ写真ファイル	オブジェクト詳細の見出しに「PHOTO」という文字列を表示します。編集中は、ファイルを参照できます。このハンドラでは、ファイルの保存場所 (LDAP やファイルなど)、最大ファイルサイズ、ファイル保存パス (該当する場合) も指定できます。これらは、UIHandlers.XML で変更できます。	PHOTO*
バイナリビデオファイル	オブジェクト詳細の見出しに「VIDEO」という文字列を表示します。編集中は、ファイルを参照できます。このハンドラでは、ファイルの保存場所 (LDAP やファイルなど)、最大ファイルサイズ、ファイル保存パス (該当する場合) も指定できます。これらは、UIHandlers.XML で変更できます。	VIDEO*
バイナリオーディオファイル	オブジェクト詳細で AUDIO 属性を再生します。編集中は、ファイルを参照できます。このハンドラでは、ファイルの保存場所 (LDAP やファイルなど)、最大ファイルサイズ、ファイル保存パス (該当する場合) も指定できます。これらは、UIHandlers.XML で変更できます。	AUDIO*

LDAP ディレクトリ構文に関連付けられる UI ハンドラ

注: アスタリスク (*) は、属性のデフォルトハンドラを示します。

名前	説明	LDAP ディレクトリ構文による関連付け
テキストボックスの拡大	可能な場合、テキストボックス拡大コントロールを使用します。このコントロールは、Internet Explorer 5.5 以降でのみ使用できます。それ以外のブラウザを使用している場合、eGuide では標準のコントロールが使用されます。	ディレクトリ文字列 *
True/False セレクタ	True/False セレクタを表示します。属性が True でも False でもない場合、このハンドラは現在の値で追加オプションを作成します。	ブール

名前	説明	LDAP ディレクトリ構文による 関連付け
識別名セクタ	UIHandlers.XML ファイルで定義される表示属性を使用して、識別名 (DN) を表示します。デフォルトでは、これらの属性は GIVENNAME、INITIALS、LASTNAME です。編集モードでは、eGuide 管理ユーティリティの [表示設定] で定義されるリスト属性を使用してユーザを指定できます。	DN*
単一値識別名セクタ	UIHandlers.XML ファイルで定義される表示属性を使用して、単一値の識別名 (DN) を表示および編集します。デフォルトでは、これらの属性は GIVENNAME、INITIALS、LASTNAME です。編集モードでは、eGuide 管理ユーティリティの [表示設定] で定義されるリスト属性を使用してユーザを指定できます。	DN
複数値米国電話番号	電話番号が特定の形式で入力されるようにします。この形式のデフォルトは「(012) 345-6789」ですが、UIHandlers.XML ファイルで簡単に変更できます。	電話番号
単一値米国電話番号	単一値の電話番号が特定の形式で入力されるようにします。この形式のデフォルトは「(012) 345-6789」ですが、UIHandlers.XML ファイルで簡単に変更できます。	電話番号 *
単一値国際電話番号	単一値の電話番号が特定の形式で入力されるようにします。この形式のデフォルトは「+0123456789」(オプションで後ろに数字を追加) ですが、UIHandlers.XML ファイルで簡単に変更できます。	電話番号
単一値オーストラリア電話番号	単一値の電話番号が特定の形式で入力されるようにします。この形式のデフォルトは「(01) 2345 6789」ですが、UIHandlers.XML ファイルで簡単に変更できます。	電話番号
True/Falseセクタ(編集のみ)	True/False セクタを表示します。属性が True でも False でもない場合、このハンドラは現在の値で追加オプションを作成します。編集モードでない場合、属性は非表示になります。	ブール *
テキストボックス	表示形式および編集形式の基本的なコントロールを表示します。	ディレクトリ文字列
テキストボックス(単一値)	編集モードで、単一の文字列のみを入力できるようにします。	ディレクトリ文字列
バイナリファイル	オブジェクト詳細から特定のファイルを起動するリンクを作成します。編集中は、ファイルを参照できます。このハンドラでは、ファイルの保存場所(LDAP やファイルなど)、最大ファイルサイズ、ファイル保存パス(該当する場合)も指定できます。これらは、UIHandlers.XML で変更できます。	8 進文字列 *
汎用コントロール	構文や属性のキー名に関係なく、すべての属性で使用できます。属性は文字列として扱われ、必要に応じて複数値のコントロールが表示されます。	他のすべての構文

UI ハンドラの使用

重要: UI ハンドラを使用するには、eGuide を設定して実行する必要があります。

- 1 eGuide 管理ユーティリティで、[LDAP データソース] をクリックします。
- 2 目的の LDAP データソースについて [編集] を選択します。
- 3 [属性] タブで、変更する属性を探し、[詳細オプション] をクリックします。
- 4 目的の UI ハンドラを選択します。
- 5 UI ハンドラを選択したら、[OK] をクリックします。

既存 UI ハンドラの詳細プロパティの変更

UI ハンドラのプロパティについて例を参照または変更するには、`\eGuide\WEB-INF\plugins\eGuide` ディレクトリにある `UIHandlers.XML` ファイルを参照してください。

ほとんどの UI ハンドラは eGuide 管理ユーティリティさえあれば選択できますが、詳細な設定に役立つ追加設定もあります。

これらの設定は、UI ハンドラのデータハンドラによって異なります。データハンドラの説明はこのマニュアルに記載されていませんが、これらの機能はデータハンドラについて理解していなくても使用できます。各 UI ハンドラには、対応するデータハンドラがあります。データハンドラでは、LDAP データソースに情報を保存したり、LDAP データソースから情報を取得できます。詳細なプロパティを使用すると、管理者は保存プロセスと取得プロセスにおける動作を変更できます。

たとえば、異なる属性を使用して LDAP DN 属性を表示することもできます。抽出された属性は、DN 属性があるオブジェクトではなく DN によって指定されるオブジェクトに保存されます。そのため、属性を表示するには、eGuide による追加読み込みの対象となる属性を指定する必要があります。

新しい UI ハンドラの作成

独自の UI ハンドラを作成するには、次の 2 つの基本的手順が必要となります。

- ◆ 54 ページの「手順 1: UI ハンドラの情報を登録する」
- ◆ 55 ページの「手順 2: UI ハンドラの動作を定義する」

手順 1: UI ハンドラの情報を登録する

eGuide サーバを起動すると、`\plugins\eGuide` ディレクトリから XML ファイルが検索されます。このディレクトリ内のファイルは、eGuide 管理ユーティリティで使用できる UI ハンドラを定義します。したがって、新しい UI ハンドラを作成するか既存の UI ハンドラを変更するには、このディレクトリに新しいファイルを追加するか既存のファイルを変更します。ファイル名に制限はありませんが、拡張子は `.xml` でなければなりません。

定義する必要があるのは、UI ハンドラ、ID、名前、および説明です。テンプレートキーまたは属性構文に対する関連付けも指定する必要があります。これを行うには、`attribute-name` タグまたは `syntax-name` タグを使用します。

このハンドラを使用できるクライアントを指定することもできます。eGuide 管理ユーティリティを使用すると、ハンドラが各種のデバイスを動作させることができるかどうかを簡単に指定できます。また、必要な場合は、**multi-valued-enabled**、**single-valued-enabled**、**read-write-enabled**、**read-only-enabled** も指定できます。

データハンドラのクラス名も指定する必要があります。データハンドラでは、Java クラスを使用して情報の取得と保存を行う方法を変更できます。たとえば、完全に別個のデータベースに対してクエリを行い、情報を取得することができます。ただし、ほとんどの場合は、次の例に示すようにデフォルトのデータハンドラを指定します。

次のハンドラ定義は、ユーザタイプハンドラを作成するためのサンプルデータとして使用できます。この例は、`\eGuide\web-inf\plugins\eGuide` にある `Customuihandler.xml` ドキュメントにも含まれています。コメントを解除して eGuide を再起動するだけで機能します。

```
<!-- ATTRIBUTE :User Type Selector -->
<ui-attribute-handler>
  <id>SVUserType</id>
  <attribute-name>USERTYPE</attribute-name>
  <class-name>com.novell.eguide.handler.LabeledURIDataHandler</class-name>

  <client>browser</client>
  <client>pocket</client>

  <multi-valued-enabled/>
  <single-valued-enabled/>
  <read-write-enabled/>
  <read-only-enabled/>

  <display-name-key>User Type Selector</display-name-key>
  <resource-properties-file>eguideresources</resource-properties-file>
</ui-attribute-handler>
```

XML ファイルで同じ情報を定義したら、eGuide サーバを再起動する必要があります。これで、カスタム UI ハンドラを選択できるようになります。ただし、クライアントでハンドラを表示すると、関連付けられた属性についての警告メッセージが表示されます。プロセスを完了させるには、手順 2 を実行します。

手順 2: UI ハンドラの動作を定義する

HTML、JavaScript、CSS などのブラウザ言語を使用して、情報の表示や編集を行う方法を定義します。

この例の場合は、`eGuide\web-inf\templates\xsl\default\browser` ディレクトリにある `UIHandlers.xml` ファイルで、次の部分のコメントを解除します。

```
<!-- SV Employee Type -->
<xsl:when test="@uihandler='SVEmployeeType'">
  <tr>
    <xsl:call-template name="LabelTD"/>
    <xsl:choose>
      <xsl:when test="edit='true'">
        <td class="ValueText">
          <input type="hidden" name="{name}" id="{name}">
            <xsl:attribute name="value"><![CDATA[<undefined><nochange></nochange></
undefined>]]></xsl:attribute>
          </input>
          <select size="1" class="inputTextBox" name="_SV_CTRL_{name}" value="{value}"
onchange="updateSvXml('document.forms[0]._SV_CTRL_{name}')">
            <option value="Contract"><xsl:if test="value = 'Contract'"><xsl:attribute
```

```

name="selected">true</xsl:attribute></xsl:if>Contract</option>
    <option value="Full Time"><xsl:if test="value = 'Full Time'"><xsl:attribute
name="selected">true</xsl:attribute></xsl:if>Full Time</option>
    <option value="Internship"><xsl:if test="value =
'Internship'"><xsl:attribute name="selected">true</xsl:attribute></xsl:if>Internship</option>
    <option value="Part Time"><xsl:if test="value = 'Part Time'"><xsl:attribute
name="selected">true</xsl:attribute></xsl:if>Part Time</option>
    <option value=""><xsl:if test="value = '"><xsl:attribute
name="selected">true</xsl:attribute></xsl:if>(None)</option>
    </select>
</td>
</xsl:when>
<xsl:otherwise>
    <xsl:call-template name="MSV_GenericTextShowTD"/>
</xsl:otherwise>
</xsl:choose>
</tr>
</xsl:when>

```

注: この変更を動作中のシステムに反映させるには、サーバを再起動するか、eGuide 管理ユーティリティの [レポート中] > [デバッグ] で XML のデバッグを有効にする必要があります。XML デバッグには、テンプレートのキャッシングを無効にするという目的と、eGuide の XML 出力をコンソール画面とログファイルに書き込むという目的があります。ただし、この 2 つの機能を有効にすると、サーバのパフォーマンスが低下します。

これで、EMPLOYEE TYPE 属性の UI ハンドラか、テンプレートキーを EMPLOYEE TYPE にマッピングした属性の UI ハンドラを選択できるようになります。

E

eGuide アクションコマンド

このセクションでは、Novell® eGuide サーブレットにアクションを指定するパラメータについて説明します。これらのコマンドを他のアプリケーションで使用すると、eGuide サーブレットと通信できます。

アクションコマンドの表示

- 1 eGuide 管理ユーティリティで、[デバッグ] をクリックします。
 - 2 [デバッグ] ページで、[デバッグ] チェックボックスをオンにします。
 - 3 eGuide のログファイルまたはアプリケーションサーバコンソールで、「Key:」という部分を探します。
- すべてのアクションについて、URL から渡された値と [Post(ポスト)] フォームを通して渡された値が「Key: 名前 = 値」という形式で出力されています。

コマンドのパラメータと例

アクションなし

匿名モードでコマンドラインからアクションなしを実行すると、eGuideForm アクションが起動します。eGuide が強制認証モードになっている場合は、AuthForm がロードされます。

パラメータ

このコマンドにパラメータはありません。

例

```
http://www.domainname.com/eGuide/servlet/eGuide
```

AuthForm

eGuide が強制認証モードになっているときのデフォルトアクションです。ログインページの初期フレームを設定し、authform.xsl を使用して AuthHeader および AuthBody に対するアクションを開始します。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=AuthForm	
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context

例

強制認証モード：

```
http://www.domainname.com/eGuide/servlet/eGuide
```

強制認証モードのみ：

```
http://www.domainname.com/eGuide/servlet/eGuide?Action=AuthForm
```

注：フレームがないテーマを作成する場合は、authform.xml で AuthHeader と AuthBody に対するリンクを削除します。認証プロセスではデフォルトで authbody.xml がロードされるので、同じ情報が authform.xml と authbody.xml に含まれている必要があります。

AuthHeader

フレームの設定を完了させるために AuthForm の後で呼び出されます。デフォルトで authheader.xml ファイルがロードされます。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=AuthHeader	
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context

例

強制認証モードのみ：

```
eGuide?Action=AuthHeader&User.context=rgyadi of
```

AuthBody

メインとなる認証 HTML ページを設定するために呼び出されます。eGuide が匿名モードになっているときに Login アクションを使用すると、アクセスできます。デフォルトで authbody.xml ファイルがロードされます。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=AuthBody	
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context

例

強制認証モードのみ：

```
eGuide?Action=AuthBody&User.context=rgyadi of
```

匿名モード：

```
eGuide?Action=Login&User.context=rgyadi of
```

Detail.get

指定したディレクトリにある LDAP エントリの詳細を表示します。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=Detail.get	アクション
User.dn=cn=name,ou=name2,o=novell	エントリの識別名
Directory.uid=DirectoryName	この名前については、eGuide のシステム管理者に問い合わせてください
Object.uid=USER	エントリが定義されているカテゴリ

オプションのパラメータ	説明
User.context=	セッション制御
stsh=other.xsl	デフォルト以外のスタイルシートを指定します
RecurseDN=false	DN を読み込み、DN で定義されている情報を戻します

例

```
eGuide?User.context=rytuUjkhkAi&Action=Detail.get&User.dn=cn=userid,ou=org,o=Novell&Directory.uid=Extensive&Object.uid=USER'
```

DetailEdit

59 ページの「[Detail.get](#)」を参照して、アクションを目的のアクションに置き換えてください。唯一の相違は、このアクションでは XML ドキュメントに情報が追加されているという点です。

DetailModify

59 ページの「[Detail.get](#)」を参照して、アクションを目的のアクションに置き換えてください。唯一の相違は、このアクションでは XML ドキュメントに情報が追加されているという点です。

DetailUpdate

ディレクトリ内の LDAP エントリを更新し、結果を戻します。

注: 変更対象の属性は、属性と値によるキー名で eGuide に戻されます。値は XML 形式で作成し、CDATA タグで閉じる必要があります。値に「nochange」というキーワードがある場合、属性は無視され、更新されません。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=DetailUpdate	アクション
User.dn=cn=name,ou=name2,o=novell	エントリの識別名
Directory.uid=DirectoryName	この名前については、eGuide のシステム管理者に問い合わせてください
Object.uid=USER	エントリが定義されているカテゴリ
AttributeKeyName=<undefined><value><![CDATA[TA[new value]]</value></undefined>	

オプションのパラメータ	説明
User.context=	セッション制御
stsh=other.xml	デフォルト以外のスタイルシートを指定します
RecurseDN=false	DN をユーザ情報に置き換えます。デフォルトは「True」です。

例

```
<form action="eGuide?&Action=DetailUpdate method="post" >
  <input name=Directory.uid type=hidden value="novell">
  <input name="User.context" type="hidden" value="eiadyda">
  <input name="Object.uid" type="hidden" value="USER">
  <input name="User.dn" type="hidden" value="cn=name,ou=organUnit,o=novell">
  <input name="TITLE" type="text" value="<undefined><value> <![CDATA[new value]]>
</value> </undefined>" >
</form>
```

eGuideForm

匿名モードになっているときや、強制認証モードの認証プロセス後におけるデフォルトアクションです。

パラメータ

パラメータ	説明
Action= eGuideForm	アクション
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context

オプションのパラメータ	説明
stsh=otherform.xml	デフォルト以外のスタイルシートを指定します

例

匿名モード :

eGuide

または

eGuide?Action=eGuideForm&User.context=rgyadiof&stsh=otherform.xml

eGuideHeader

eguideform.xml ファイルから呼び出され、eGuide の検索カテゴリと属性を設定します。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=eGuideHeader	アクション
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context
Search.rows=1	デフォルトで表示する検索行の数

オプションのパラメータ	説明
stsh=otherform.xml	デフォルト以外のスタイルシートを指定します

例

eGuide

または

eGuide?Action=eGuideForm&User.context=rgyadiof&stsh=otherform.xml

eGuide.verifyCredentials

ディレクトリに対する認証接続とユーザのアカウント情報の確認のために、認証プロセスで使用されます。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=eGuide.verifyCredentials	アクション
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context
Value1=	認証対象のユーザの DN
Value2=	パスワード

オプションのパラメータ	説明
RememberUserInfo=true	「true」の場合、アカウント情報を cookie としてブラウザで保存します。

例

```
eGuide?eGuide.verifyCredentials&User.context=rypxSbuoirAi&DN=cn=Admin,o=novell
```

eGuide.verifyNewPassword

パスワードが期限切れになっていて再設定が必要であることがわかった場合に使用されます。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=eGuide.verifyNewPassword	アクション
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context
OldPassword=	古いパスワード
Value1=	パスワード
Value2=	パスワード

例

```
eGuide?Action=eGuide.verifyNewPassword&User.context=rypxSbuoirAi&OldPassword=old &Value1=new psswr&Value2=new psswr
```

eGuide.selectContext

同じログイン ID のユーザが複数見つかった場合に認証プロセスで使用されます。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=eGuide.selectContext	アクション
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context
DN=cn=name,o=container	認証対象として選択した DN

例

```
eGuide?eGuide.selectContext&User.context=rypxSbuoirAi&DN=cn=Admin,o=novell
```

List.get

指定したフィルタによる検索リクエストです。結果はリストにまとめられます。検索フィルタは、eGuide 管理ユーティリティで設定したディレクトリの一部またはすべてに対して適用されます。値のセットより大きなリストをキャッシュするには、max キーを使用します。キャッシュされるリストについては、次の List.get アクションを参照してください。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=list.get	アクション
val1=value	検索する値
attr1=attribute	属性キー名
crit1=sw	値の評価に使用する条件
Object.uid=USER	検索カテゴリ
Search.attributes=attr1,attr2,attr3,...	検索で戻された属性

オプションのパラメータ	説明
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context
Primary.sortkey=attr1	リストのソート順序の決定に使用される最初の属性
Secondary.sortkey=attr2	リストのソート順序の決定に使用される2番目の属性
max=20	ブラウザ上で一度に表示する数。これにより、エンドユーザに対するリクエストが高速になります
stsh=otherform.xsl	デフォルト以外のスタイルシートを指定します

例

```
<form action="eGuide?&Action=List.get&Object.uid=USER&User.context=" method="post" >
<input name="Search.attributes" type="hidden" value="GIVENNAME, LASTNAME, DEPARTMENT">
<input name="Primary.sortkey" type="hidden" value="LASTNAME">
<input name="Secondary.sortkey" type="hidden" value="GIVENNAME">
<select name="crit1">
<option value="co">contains</option>
<option value="eq">>equals</option>
<option selected="true" value="sw">starts with</option>
</select>
<select name="attr1">
<option value="GIVENNAME">First Name</option>
<option selected="true" value="LASTNAME">Last Name</option>
</select>
<input size="20" type="text" name="val1">
<input type="Submit">
</form>
```

List.get (キャッシュされたリスト)

このアクションで `max` パラメータと `start` パラメータを使用すると、前にキャッシュされたリストから情報を取得できます。キャッシュされたリストを使用すると、エンドユーザのパフォーマンスが著しく向上します。ユーザのセッションで結果をキャッシュするには、元の `list.get` リクエストで `max` パラメータを指定する必要があります。キャッシュされたリスト内の開始位置を指定するには、`start` 値を使用します。先頭の値を指定するには、XML ファイルで `prev` 値と `next` 値を使用します。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=list.get	アクション
start=100	リスト内の次の開始位置
max=20	ブラウザ上で一度に表示する数。これにより、エンドユーザに対するリクエストが高速になります

オプションのパラメータ	説明
stsh=otherform.xml	デフォルト以外のスタイルシートを指定します
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context

例

```
eGuide?Action=list.get&max=20&start=20&User.context=rypxSbuoirAi
```

List.get(詳細)

指定したフィルタによる検索リクエストです。結果はリストにまとめられます。詳細なリストは、任意の数の値と属性をクエリで送信して検索フィルタを定義できるという点において、リストと異なります。任意の数の値 (パラメータ `val1`、`val2`、`val3`) を送信するには、同じ数の属性 (`attr1`、`attr2`、`attr3`) と条件 (`crit1`、`crit2`、`crit3`) を送信する必要があります。属性、条件、値のセットは、ブール値 (`aoval1`) で区切る必要があります。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=list.get	アクション
val1=valu1&val2=val2&val3=value3	
attr1=attribute&attr2=attribute&attr3=attribute3	
crit1=sw&crit2=cq&crit3=sw	
Object.uid=USER	検索カテゴリ
Search.attributes=attr1,attr2,attr3,...	検索で戻された属性

オプションのパラメータ	説明
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context
Primary.sortkey=attr1	リストのソート順序の決定に使用される最初の属性
Secondary.sortkey=attr2	リストのソート順序の決定に使用される 2 番目の属性
aoval1=and	高度な検索で複数の値を検索するときに定義します
max=20	ブラウザ上で一度に表示する数を指定します。これにより、エンドユーザに対するリクエストが高速になります
stsh=otherform.xsl	デフォルト以外のスタイルシートを指定します

Login

通常は、eGuide が匿名モードになっているときの認証で呼び出されます。認証プロセスが起動し、authbody.xsl スタイルシートがロードされます。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=Login	アクション

オプションのパラメータ	説明
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context

例

eGuide?Action=Login&User.context=rypxSbuoirAi

OrgChart

Listアクションと Detailsアクションの組み合わせです。マネージャの情報は指定したディレクトリから取得されますが、部下の情報は複数のディレクトリから取得できます。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=Org.Chart	アクション
Directory.uid=DirectoryName	
Manager.dn=cn=userid,o=org,o=novell	
attr1=Manager	
crit1=eq	

パラメータ	説明
val1=cn=userid,o=org,o=novell	
Search.attributes=GIVENNAME, LASTNAME, ORGCHARTPARENTDN, ORGCHARTISPARENT	
Object.uid=USER	
User.dn=cn=userid,ou=org,o=novell	

オプションのパラメータ	説明
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context
stsh=other.xsl	デフォルト以外のスタイルシートを指定します
RecurseDN=false	ユーザ情報を戻します。デフォルトは「true」です。

例

eGuide?User.context=rytuUjkhkAi&Action=Org.Chart&Directory.uid=Extensive&User.dn=cn=nbjensen,ou=eGuide,ou=Demo,o=Novell&Object.uid=USER&Search.attributes=GIVENNAME,INITIALS,LASTNAME,EMAIL,TITLE,ORGCHARTPARENTDN,ORGCHARTISPARENT,&attr1=MANAGER&crit1=eq&Manager.dn=cn=Bgarrett,ou=eGuide,ou=Demo,o=Novell&val1=cn=Bgarrett,ou=eGuide,ou=Demo,o=Novell

OrgChartUpdate

ORCHARTPARENT キーにマッピングされた属性を更新するために使用されます。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=Org.Chart	アクション
Directory.uid= <i>DirectoryName</i>	
Manager.dn=cn=userid,o=org,o=novell	
attr1=Manager	
crit1=eq	
val1=cn=userid,o=org,o=novell	
Search.attributes=GIVENNAME, LASTNAME, ORGCHARTPARENTDN, ORGCHARTISPARENT	
Object.uid=USER	
TargetDN=cn=userid,ou=org,o=novell	変更を行うユーザ

パラメータ	説明
AttrTargetValue=cn=admin,o=novell	変更する値
AttrTargetName=ORGCHARTPARENTDN	更新する属性キー名

オプションのパラメータ	説明
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context
stsh=other.xsl	デフォルト以外のスタイルシートを指定します
RecurseDN=false	ユーザ情報を戻します。デフォルトは「true」です。

例

65 ページの「[OrgChart](#)」を参照して、TargetDN、AttrTargetValue、AttrTargetName をパラメータとして追加してください。

PasswordModify

パスワードを変更するページの表示を設定するために使用されます。エンドユーザに表示されるページは、そのユーザの役割に基づいて決定されます。eGuide 管理ユーティリティで設定されるユーザ管理者のページや、他のユーザのパスワードを変更する役割を持つユーザのページには、2 つの入力フィールドがあります。通常のエンドユーザのページには、3 つの入力フィールドがあります。

パラメータ

パラメータ	説明
Action>PasswordModify	アクション
User.dn=cn=name,ou=name2,o=novell	エントリの識別名
Directory.uid=DirectoryName	この名前については、eGuide のシステム管理者に問い合わせてください
Object.uid=USER	エントリが定義されているカテゴリ

オプションのパラメータ	説明
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context

PasswordUpdate

パスワードを更新するページの表示を設定するために使用されます。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=PasswordUpdate	アクション
User.dn=cn=name,ou=name2,o=novell	エントリの識別名
Directory.uid=DirectoryName	この名前については、eGuide のシステム管理者にお問い合わせください
Object.uid=USER	エントリが定義されているカテゴリ
Value1=	新しいパスワード
Value2=	新しいパスワード
OldPassword=	古いパスワード

オプションのパラメータ	説明
User.context=rypxSbuoirAi	新しいセッションを作成するブランクの User.context

PhotoModify

写真の追加または削除と公開許可に対する同意をエンドユーザが行うページの表示を設定します。

パラメータ

パラメータ	説明
Action=PhotoModify	アクション
User.dn=cn=name,ou=name2,o=novell	エントリの識別名
Directory.uid=DirectoryName	この名前については、eGuide のシステム管理者にお問い合わせください
Object.uid=USER	エントリが定義されているカテゴリ

オプションのパラメータ	説明
User.context=	セッション制御
RecurseDN=false	ユーザ情報を戻します。デフォルトは「true」です。

注：現在のユーザのセッションを追跡するために User.context が使用されます。User.context パラメータは、初回のリクエストでは省略できますが、以後のページには含める必要があります。